Pioneer

マルチ CD/MD コントロール
DSP チューナー CD アンプ

DEH-P9900

取扱説明書

目次 4ページ

carrozzeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告	この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
注意	この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

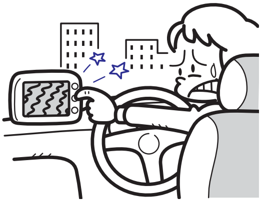
注意	このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。
禁止	このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。
必ず行う	このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意（別冊の「安全上のご注意」もお読みください。）

警告

[異常時の処置]

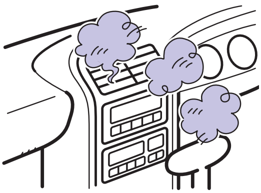
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起こりましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

内蔵 CD で CD を聞く

ラジオを聞く

マルチ CD で CD を聞く

(別売のマルチ CD を組み合わせたときのみ)

音を調節する

CONTENTS

DSP調節 音場と音質を調節する

その他 その他の機能と初期設定

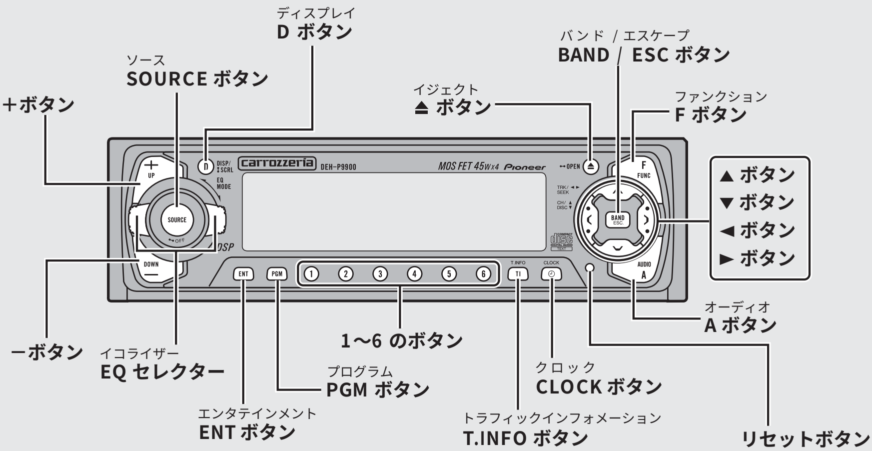
すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

すぐ使えます ここだけ読めば

付録 付録

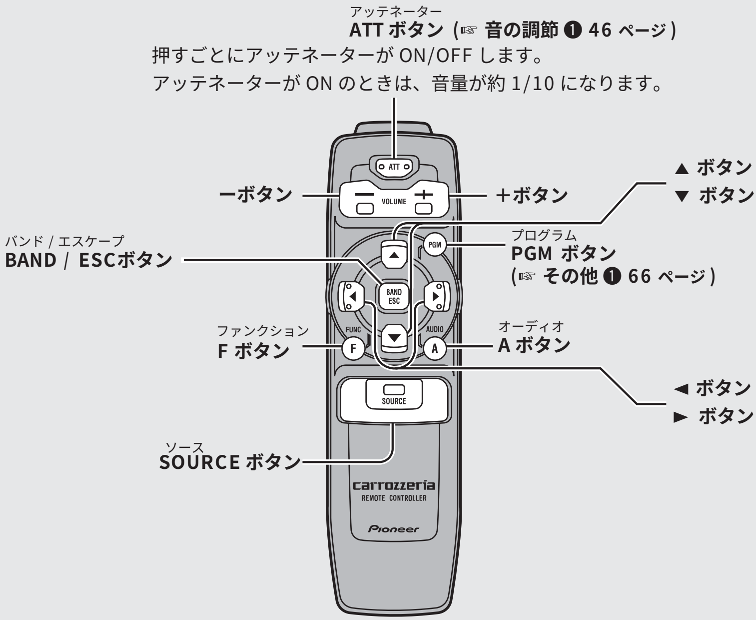
はじめに 1 各部のなまえ

本体



リモコン

各ボタンは、本体の同じなまえのボタンと同じ働きをします。
ATTボタンは、リモコンだけに付いているボタンです。



PGM ボタンについて

よく使う機能をソースごとに、PGMボタンに学習させることができます。学習させた機能は、モードを切り換えなくても操作できるようになります。(初期設定では、内蔵CDでポーズ、ラジオでBSM、マルチCDでポーズが学習されています。) **(☞ その他❶ 66 ページ)**

はじめに 2 バッテリー上がりを防ぐために

バッテリー上がりを防ぐためのご注意

●本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のエンジンスイッチをON (またはACC) にしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

●車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

はじめに 3 デモモードについて

本機には、リバースデモとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースデモについて

リバースデモは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースデモを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON (またはACC) のときに本機の電源をOFFにして5のボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能 (エンタテインメント、DSP、SFCなど) の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに6のボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

メモ

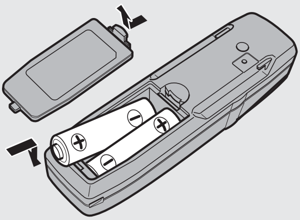
● 赤リード線 (アクセサリー電源) は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

裏ブタを開けて、単4形乾電池 (R03) 2本をセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコン取り扱い上のご注意

- ●リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- ●本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- ●乾電池は、充電しないでください。
- ●リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。
- ●電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

メモ

- ●誤ってリモコンのBAND/ESCボタンを押しながらFボタンを押してしまうと、＋ボタンとーボタン、PGMボタン、ATTボタンが効かなくなります。この場合、リモコンのBAND/ESCボタンを押しながらAボタンを押すと、元に戻ります。

ここだけで1 聞きたいソース (音源) を選ぶ

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。

1 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

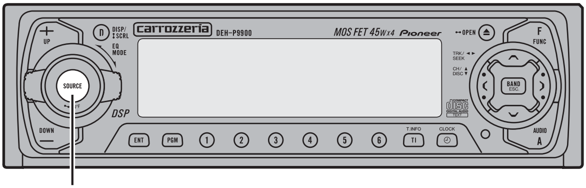
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

内蔵 CD
↓
テレビ (別売)
↓
ラジオ (FM/AM)
↓
1 枚型 MD (別売)
↓
マルチ MD (別売)
↓
マルチ CD (別売)
↓
External
(エクスターナルユニット) (別売)
↓
AUX (外部機器) (別売)
↓
内蔵 CD に戻る

2 電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

本機の電源が切れます。



ソース
SOURCE ボタン

メ モ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- CD や MD がセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- AUX (外部機器) の設定 (**☞ その他❼ 71 ページ**) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。
- External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機で External (エクスターナルユニット) としてコントロールできる製品は 1 台だけです。
- 本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナのコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオまたはテレビにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。(**☞ その他❻ 70 ページ**)

テレビ、1 枚型 MD、マルチ MD を接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P7000W」
1 枚型 MD	「MDS-P7000」
マルチ MD	「MD-P100II」

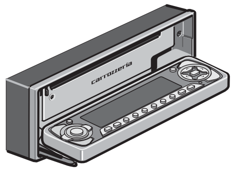
上記の製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作説明が行われている場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

ここだけで 2 内蔵CDのふだんの操作　● CDを再生する　● 曲を選ぶ

ここだけの操作で、CDを聞くことができます。

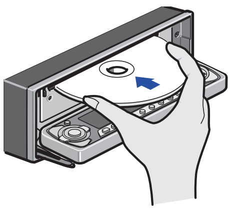
1 CDを再生する

≜ボタンを押して、フロントパネルを開ける



↓

タイトル面を上にして、挿入口に差し込む



↓

自動的にフロントパネルが閉まり、CDの再生が始まります。

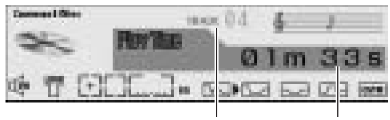
ご注意

CDシングル（8 cm CD）もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対使用しないでください。

2 聞きたい曲を選ぶ（または早送り/早戻し）

◄または►ボタンを押す

► ：次の曲を選ぶとき（または早送り）
◄ ：前の曲を選ぶとき（または早戻し）



選曲と早送り/早戻しの使い分け	
聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し続けている間

⚠ 注意

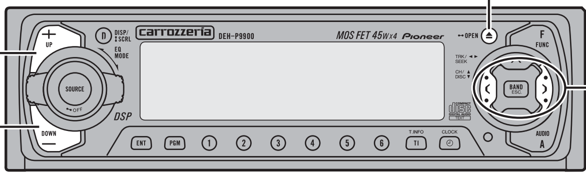
フロントパネルを開けたままで使用しない

禁止

フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。

メモ

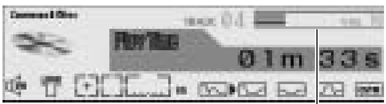
● CDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。（☞ ここだけで❶ 10ページ）



3 音量を調節する

＋または−ボタンを押す

＋：大きくするとき
−：小さくするとき



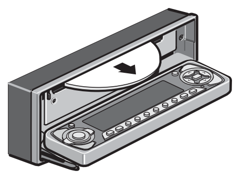
0～40の範囲で調節できます。

●約4秒間、音量が表示されます。

4 CDを取り出して CD再生をやめる

⏏ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開きCDが出てきます。



●出てきたCDはすぐに取り出して、保管してください。

↓

⏏ボタンを押して、フロントパネルを閉める

フロントパネルが閉まります。

●CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐためフロントパネルを閉めてください。

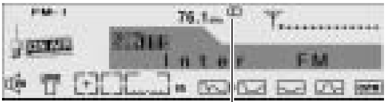
ここだけで3 ラジオのふだんの操作　● バンドを選ぶ　● 放送局を選ぶ

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。

1 ソースを ラジオにする

SOURCE ボタンを押す

ラジオを受信します。



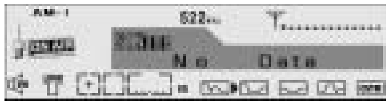
ステレオ放送を受信すると表示されます。

2 バンドを 選ぶ

BAND/ ESC ボタンを押す

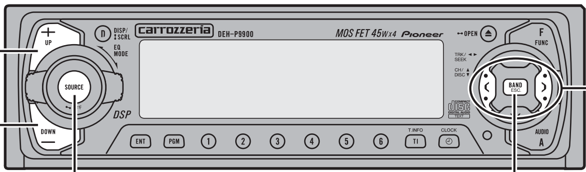
ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM -1 → FM - 2 → AM -1 → AM - 2
↑_____________________________|



- バンドごとに放送局を 6 局ずつ記憶できます。 (☞ **ラジオ❶❺ 24、27 ページ**)
- バンド 1 とバンド 2 を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド 1 にはふだんよく聞く放送局を記憶させておき、旅行先など、どんな放送局があるか知らない地域に行ったときに、バンド 2 に切り換えて BSM を使うと、バンド 1 に記憶させた放送局はそのままお使いになれます。

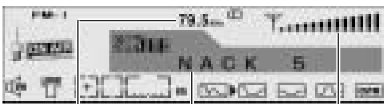
● 音量を調節する



3 放送局を選局する

◄ または ► ボタンを押す

► ：高い周波数の放送局を選局するとき
◄ ：低い周波数の放送局を選局するとき



受信周波数　放送局名　受信状況

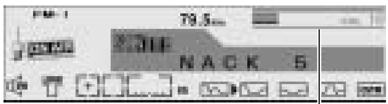
選局方法の使い分け	
手動選局 (1 ステップずつ)	0.5 秒未満
自動選局	0.5 秒以上

●0.5 秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離したところから自動選局を開始します。
●電波の強い放送局を選局するには、自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには、手動選局をおすすめします。
●本機は、あらかじめ放送局名を記憶しています。ディスプレイに表示されている放送局名と受信している放送局名が異なるときは、受信している放送局名に変更することができます。(☞ ラジオ❻ 28 ページ)

4 音量を調節する

＋または－ボタンを押す

＋：大きくするとき
－：小さくするとき



0～40 の範囲で調節できます。

●約 4 秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源 OFF にする (☞ ここだけで❶ 10 ページ)

ここだけで4 マルチCDのふだんの操作 ● CDを選ぶ ● 曲を選ぶ

ここだけの操作で、マルチCDプレーヤーでCDを聞くことができます。

1 ソースをマルチCDにする

SOURCEボタンを押す

マルチCDの再生が始まります。



2 聞きたいCDを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

▲：次のCDを選ぶとき
▼：前のCDを選ぶとき

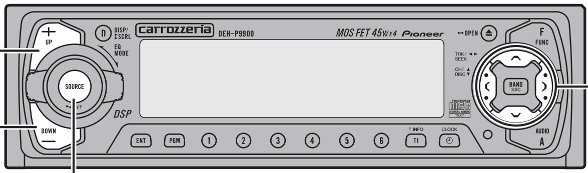


CD番号

メモ

- マルチCDが準備動作（CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“READY”が表示されます。
- 50連奏マルチCDを操作する場合は、準備動作が終了していないと“Not Ready”と表示され動作しない機能があります。その場合は、50連奏マルチCD以外のソースに切り換えてください。その間に自動的に準備動作を行います。
- 本機に、50連奏マルチCDプレーヤー「CDX-P5000」を接続しても、次の機能は操作できません。
  ＊ミュージックグループ別プレイ
  ＊演奏頻度別プレイ
  ＊“ABC”ディスクタイトルサーチプレイ
- マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“No Magazine”が表示されます。

＋ボタン



▲ボタン
▼ボタン
◀ボタン
▶ボタン

−ボタン

ソース
SOURCE ボタン

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ボタンを押す

▶：次の曲を選ぶとき (または早送り)
◀：前の曲を選ぶとき (または早戻し)



曲番号　再生経過時間

選曲と早送り/早戻しの使い分け	
聞きたい曲の選択	0.5 秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5 秒以上押し続けている間

4 音量を調節する

＋または−ボタンを押す

＋：大きくするとき
−：小さくするとき

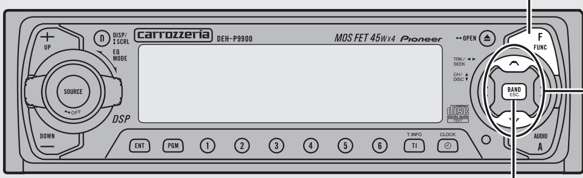


0〜40 の範囲で調節できます。

●約 4 秒間、音量が表示されます。

5 マルチ CD 再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源 OFF にする (☞ ここだけで❶ 10 ページ)



内蔵CD 1 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

ファンクションモードの切り換え

1 ファンクションモードを切り換える

Fボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

トラックリストモード
(☞ 内蔵CD❽ 23ページ)
↓
再生範囲切換モード **(☞ 内蔵CD❷)**
↓
ランダムプレイ設定モード **(☞ 内蔵CD❸)**
↓
スキャンプレイ設定モード
(☞ 内蔵CD❺ 21ページ)
↓
ポーズ設定モード **(☞ 内蔵CD❹ 20ページ)**
↓
トラックリストモードに戻る

メモ

- ファンクションモードを解除するには、BAND/ESCボタンを押します。
(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)
- トラックリストモードは、「CD TEXT」を再生しているときだけ切り換わります。

詳細設定モードの切り換え

1 詳細設定モードにする

Fボタンを2秒以上押す

2 詳細設定モードを切り換える

Fボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

タイトル入力モード **(☞ 内蔵CD❻ 22ページ)**
↓
プログラムファンクション設定モード
(☞ その他❶ 66ページ)
↓
タイトル入力モードに戻る

メモ

- 詳細設定モードを解除するには、BAND/ESCボタンを押します。
- 「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換わりません。

内蔵CD 2 同じ曲を繰り返し聞く

トラックリピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1 再生範囲切換モードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ 内蔵CD❶)



2 トラックリピート再生をONにする

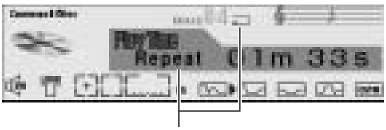
▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)



今聞いている曲を繰り返し再生します。

↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



リピート再生中に表示されます

内蔵CD 3 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定モードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ 内蔵CD❶)



2 ランダム再生をONにする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)



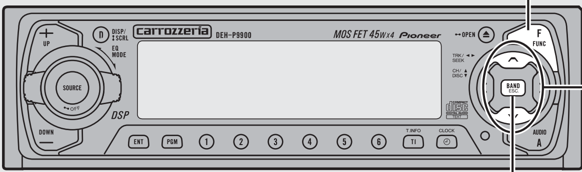
次の曲から、ランダムに選曲します。

↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



ランダム再生中に表示されます。



内蔵CD 4 CD 再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

F ボタンを押して選ぶ

(☞ 内蔵CD❶ 18ページ)



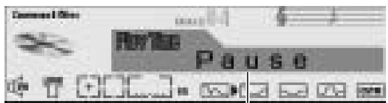
2 CD 再生を一時停止する

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで再生)



↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



一時停止中に表示されます。

聞きたい曲をさがす

曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定モードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ 内蔵CD❶ 18ページ)



2 スキャン再生を始める

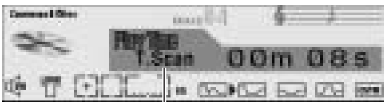
▲ ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

↓

スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。



スキャン再生中に表示されます。

3 聞きたい曲が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順1の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに▼ボタンを押す

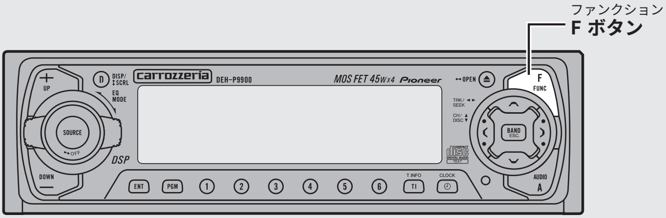


↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

- スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。



内蔵CD 6 CDのタイトルを表示させる

タイトル表示

CDのタイトルを表示させることができます。

タイトル表示について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

タイトルの記憶のしかた (☞ マルチCD⑪ 38ページ)、タイトルの表示のしかた (☞ マルチCD⑫ 40ページ) は、マルチCDと同じです。

- タイトルは、全角のカナやアルファベットで10文字まで入力できます。（半角入力はできません。）
- 内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。
- 48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。
- タイトルの記憶はCDごとに行われます。CDを取り出しても消えません。
- マルチCDを組み合わせて使うときは、最大100枚分のタイトルを記憶することができます。

1 タイトルを入力したいCDを再生する (☞ ここだけで❷ 12ページ)

2 タイトル入力モードにする

Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ (☞ 内蔵CD❶ 18ページ)

ご注意

「CD TEXT」には、タイトルを入力することはできません。そのため、「CD TEXT」を再生中に手順2の操作を行っても、タイトル入力モードには切り換わりません。

3 CDタイトルを入力し、記憶させる (☞ マルチCD⑪ 38ページ)

マルチCDのタイトル入力の手順3～5を参照し、同じ操作で記憶させてください。

内蔵CD 7 「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示させる

タイトル表示 / タイトルスクロール

本機に「CD TEXT」をセットしたとき、Track Title (曲名) や Track Artist (歌手名) などを表示させることができます。全角で10文字、半角で20文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字を順に表示させることもできます。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークのついているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)

COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT

●本機はカナやアルファベットなどの半角文字だけでなく、ひらがなや漢字などの全角文字にも対応しています。
「CD TEXT」に漢字などの全角文字の情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

タイトルの表示のしかた、隠れているタイトルの表示のしかたは、マルチCD (☞ マルチCD⑬ 40ページ) と同じです。

内蔵CD 8 曲名を見て聞きたい曲をさがす

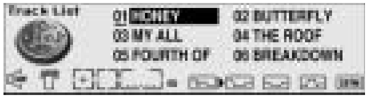
トラックリスト

本機に「CD TEXT」をセットしたとき、曲名の一覧 (トラックリスト) を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

聞きたい曲の選びかた (☞ マルチCD⑮ 43ページ) は、マルチCDと同じです。

1 トラックリストモードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ 内蔵CD❶ 18ページ)

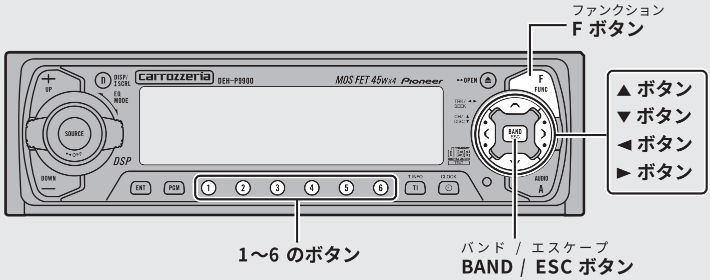


2 聞きたい曲を選び再生する (☞ マルチCD⑮ 43ページ)

トラックリストの手順2〜3を参照し、同じ操作で再生させてください。

メモ

●「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“ No T.Title ” が表示されます。



ラジオ 1 放送局を1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

1〜6のボタンに、お好みの放送局を、1局ずつ手動で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND/ESC ボタンを押す

(☞ ここだけで❸ 14 ページ)

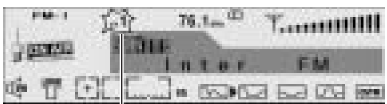
2 記憶させたい放送局を選局する

◀ または ▶ ボタンを押す

(☞ ここだけで❸ 15 ページ)

3 記憶させる

1 〜6 のボタンの1 つを2 秒以上押す



押したボタンの番号 (記憶番号) が点滅します。

↓



点滅が終わると、押したボタンに受信中の放送局が記憶されます。

メモ

● 記憶させた放送局を呼び出すには (☞ **ラジオ❷** または**ラジオ❹ 26 ページ**)

ラジオ 2 記憶させた放送局を呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたバンドを選ぶ

BAND/ESC ボタンを押す

(☞ ここだけで❸ 14 ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

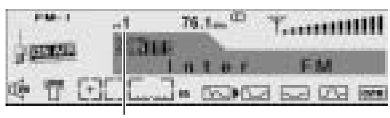
■記憶させた放送局を直接呼び出すとき

1 〜6 のボタンの1 つを押す

■記憶させた放送局を順番に呼び出すとき

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ ：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき
▼ ：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき



受信中の記憶番号

ラジオ 3 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

ファンクションモードの切り換え

1 ファンクションモードを切り換える

F ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM 設定モード **(☞ ラジオ❺ 27 ページ)**
↓
ステーションリストモード
(☞ ラジオ❹ 26 ページ)
↓
BSM 設定モードに戻る

メモ

● ファンクションモードを解除するには、BAND/ESC ボタンを押します。
(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

詳細設定モードの切り換え

1 詳細設定モードにする

F ボタンを 2 秒以上押す

2 詳細設定モードを切り換える

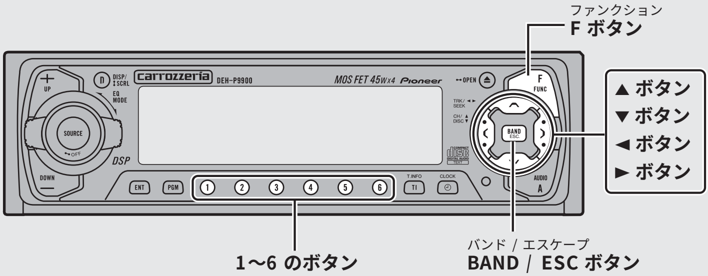
F ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

放送局名選択モード **(☞ ラジオ❻ 28 ページ)**
↓
ダイバーシティ設定モード
(☞ ラジオ❼ 29 ページ)
↓
プログラムファンクション設定モード
(☞ その他❶ 66 ページ)
↓
放送局名選択モードに戻る

メモ

● 詳細設定モードを解除するには、BAND/ESC ボタンを押します。



ラジオ 4

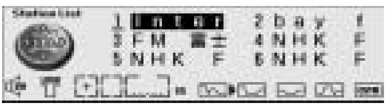
放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1〜6のボタンに記憶させた放送局を、放送局名の一覧表 (ステーションリスト) の中から選ぶことができます。

1 ステーションリスト モードにする

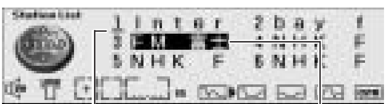
F ボタンを押して選ぶ
(☞ ラジオ❸ 25 ページ)



2 聞きたい放送局を選ぶ

◄ または ► ボタンを押して選ぶ

►：次の放送局を選ぶとき
◄：前の放送局を選ぶとき



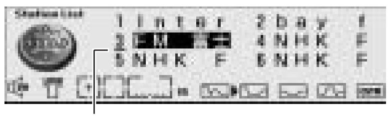
いま受信中の放送局の番号の下に、“ _ ” が表示されます。

選んだ放送局名が反転表示されます。

放送局名の左の番号は、1〜6ボタンに対応しています。1〜6ボタンのいずれかを押して、聞きたい放送局を直接選ぶこともできます。

3 選んだ放送局を呼び出す

▲ ボタンを押す



選んだ放送局の番号の下に “ _ ” が移動し、その放送局を受信します。

↓

BAND/ESC ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

- 放送局名を “ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ ” (全て空白) で選んだときは **(☞ ラジオ❻ 28 ページ)** 、周波数が表示されます。
- 記憶させた放送局名と、表示される放送局名が異なる場合は、放送局名を変更することができます。**(☞ ラジオ❻ 28 ページ)**

ラジオ 5

複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6のボタンに記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND/ESC ボタンを押す

(☞ ここだけで❸ 14 ページ)

2 BSM 設定モードにする

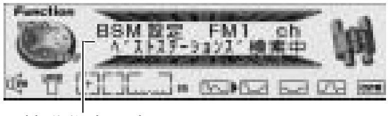
F ボタンを押して選ぶ

(☞ ラジオ❸ 25 ページ)



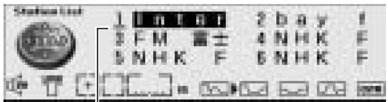
3 BSM を始める

▲ボタンを押す (▼ボタンで途中解除)



記憶動作中に表示されます。

↓



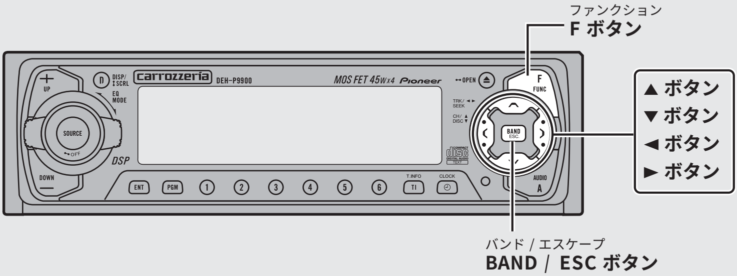
記憶が終わると、1のボタンに記憶した放送局を受信します。

↓

BAND/ESC ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

- 受信状態の良い放送局が、6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
- BSM とは、Best Stations Memory (ベストステーションズ メモリー) の略です。
- 記憶させた放送局を呼び出すには **(☞ ラジオ❷ 24 ページまたはラジオ❹)**
- バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1には普段よく聞く放送局を記憶させておき、旅行先など、どんな放送局があるか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのままお使いになれます。
- BSM は、PGM ボタンで操作することもできます。**(☞ その他❶ 66 ページ)**



ラジオ 6 放送局名を変更する

放送局名選択

ディスプレイに表示されている放送局名が、受信している放送局名と異なるときは、放送局名を変更することができます。

放送局名表示について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は違うことがあります。（例:FM 80.0MHzを使用している放送局は“TOKYO FM”“FM青森”“FM福岡”など複数あります。）

本機には、あらかじめ放送局名が記憶されています。ディスプレイに表示されている放送局名が受信している放送局名と異なるような場合は、放送局名を変更して表示することができます。

1 放送局名を変更するバンドを選ぶ

BAND/ESC ボタンを押す
(☞ ここだけで❸ 14 ページ)

2 放送局名を変更したい放送局を選局する

◀ または ► ボタンを押す
(☞ ここだけで❸ 15 ページ)

3 放送局名選択モードにする

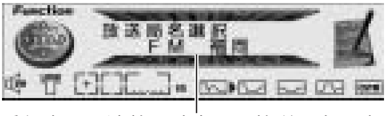
F ボタンを 2 秒以上押してから、F ボタンを押して選ぶ (☞ ラジオ❸ 25 ページ)



4 放送局名を選ぶ

◄または►ボタンを押す

►：次の放送局名を選ぶとき
◄：前の放送局名を選ぶとき



受信中の周波数に該当する放送局名を表示します。

5 放送局名を変更する

▲ボタンを押す



↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局名が記憶されていないと、“ NO DATA ” と表示されます。
- 放送局名を表示させたくないときは、“ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ ” (全て空白) を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD (「CDX-FM653」など) をお使いの方は、モジュレーター周波数にあわせると、放送局名を “ FM M-CD ” に変更して表示することができます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数にあわせると、放送局名を “ FM TV-Sound ” に変更して表示することができます。

ラジオ 7 2つのアンテナでFM放送を受信する

ダイバーシティ

FMダイバーシティをお使いのときは、ダイバーシティの設定をONにします。

FMダイバーシティについて

FMダイバーシティは、FM放送を2つのアンテナで受信するものです。ダイバーシティをONにすると、メイン用アンテナの受信感度が悪いときに、サブ用アンテナに切り換えて受信します。

FM放送を1つのアンテナで受信するときは、FMダイバーシティをOFFにしてください。ONで使うと、感度が悪くなったり、雑音が増加したりすることがあります。

1 ダイバーシティ設定モードにする

Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ (☞ ラジオ❸ 25ページ)



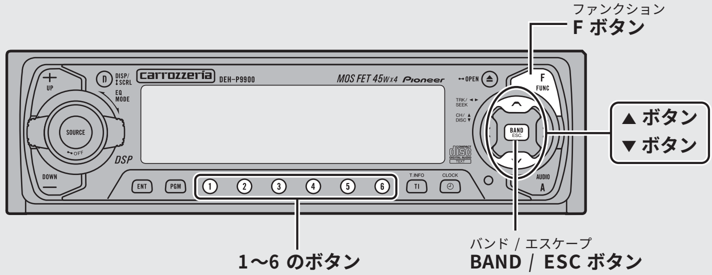
2 ダイバーシティの設定をONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



マルチ CD 1 聞きたいCDを直接選ぶ (6 /12 枚)

ダイレクトサーチ

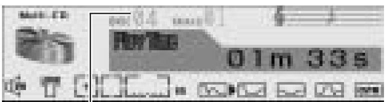
聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。

チェック◆6 連奏 / 12 連奏マルチCDプレーヤーの機能です。

1 聞きたいCDを選ぶ

1 〜6 のボタンを押す

2秒未満：1〜6枚目のCDを選ぶとき
2秒以上：7〜12枚目のCDを選ぶとき



CD番号

マルチ CD 2 おおまかに選んでから聞きたいCDを選ぶ (50

ラフサーチ

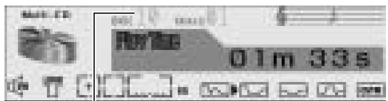
聞きたいCDの10の位の数字を合わせることができます。

チェック◆50 連奏マルチCDプレーヤーの機能です。

1 聞きたいCDをおおまかに選ぶ

1 〜5 のボタンを押す

1 ：10〜19枚目のCDを選ぶとき
2 ：20〜29枚目のCDを選ぶとき
3 ：30〜39枚目のCDを選ぶとき
4 ：40〜49枚目のCDを選ぶとき
5 ：50、51枚目のCDを選ぶとき

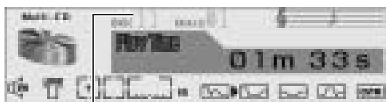


CD番号

2 聞きたいCDを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

▲：次のCDを選ぶとき
▼：前のCDを選ぶとき



CD番号

メモ

● エクストラトレイにあるCDを選んだときや、エクストラトレイからマガジンにCDが移動しているときは、“ LOADING ” が表示されます。 **(☞ 50 連奏マルチCDプレーヤーの取扱説明書)**

マルチCD 3

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

ファンクションモードの切り換え

1 ファンクションモードを切り換える

Fボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生範囲切換モード
(☞ マルチCD❹ 32ページ)
↓
ディスクリストモード
(☞ マルチCD⓮ 42ページ)
↓
トラックリストモード
(☞ マルチCD⓯ 43ページ)
↓
ランダムプレイ設定モード
(☞ マルチCD❻ 34ページ)
↓
スキャンプレイ設定モード
(☞ マルチCD❺ 33ページ)
↓
ITSプレイ設定モード
(☞ マルチCD❽ 36ページ)
↓
ポーズ設定モード
(☞ マルチCD⓰ 44ページ)
↓
コンプレッション設定モード
(☞ マルチCD⓱ 45ページ)
↓
再生範囲切換モードに戻る

メモ

- ファンクションモードを解除するには、BAND/ESCボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)
- トラックリストモードは、「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P650」など）で「CD TEXT」を再生しているときだけ切り換わります。

詳細設定モードの切り換え

1 詳細設定モードにする

Fボタンを2秒以上押す

2 詳細設定モードを切り換える

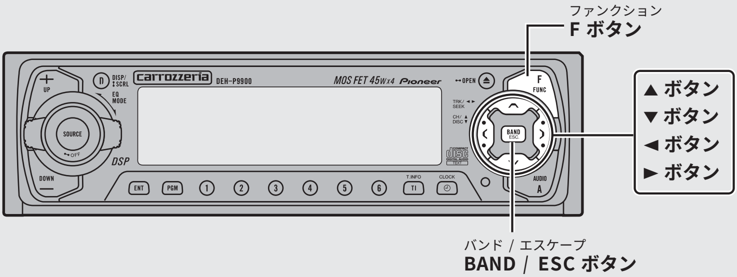
Fボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

タイトル入力モード
(☞ マルチCD⓫ 38ページ)
↓
ITS登録モード **(☞ マルチCD❼ 35ページ)**
↓
プログラムファンクション設定モード
(☞ その他❶ 66ページ)
↓
タイトル入力モードに戻る

メモ

- 詳細設定モードを解除するには、BAND/ESCボタンを押します。
- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD（「CDX-P650」など）で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換わりません(「CD TEXT」にあらかじめ記憶されているCDタイトルは変更できません。)



マルチCD 4 同じ曲やCDを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1枚のCDを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中の曲を繰り返し再生します。
ディスクリピート	再生中のCDを繰り返し再生します。
マガジンリピート	マルチCDのマガジンにセットされているすべてのCDを通して再生します。（通常はこのモードにしておきます。）

1 再生範囲切換モードにする

Fボタンを押して選ぶ

(☞ マルチCD❸ 31ページ)



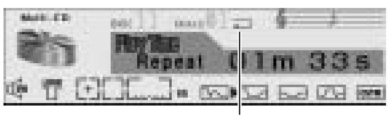
2 再生範囲を切り換える

◀または▶ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Track Repeat (トラックリピート)
↓
Disc Repeat (ディスクリピート)
↓
Magazine Repeat (マガジンリピート)
↓
Track Repeatに戻る
↓
BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



トラックリピートを選んだときに表示されます。ディスクリピートを選んだときは“ ”と表示されます。

マルチCD 5 聞きたい曲やCDをさがす

トラックスキャン再生 / ディスクスキャン再生

今聞いているCDの曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD❹)

■聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

◄または►ボタンを押してディスクリピートまたはトラックリピートにする

再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生できます。

■聞きたいCDをさがすとき
(ディスクスキャン再生)

◄または►ボタンを押してマガジンリピートにする

マルチCDのマガジン内すべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生できます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD❸ 31ページ)



3 スキャン再生を始める

▲ ボタンを押す

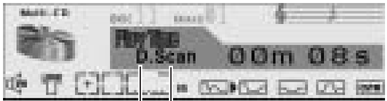


ライトがONになります。

曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

↓

スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。



スキャン再生中に表示されます。

スキャン再生の種類が表示されます。

確認表示 (スキャン再生の種類)	再生範囲
T (トラックスキャン)	ディスクリピート トラックリピート
D (ディスクスキャン)	マガジンリピート

4 聞きたい曲 (CD) が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認
ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに▼ボタンを押す

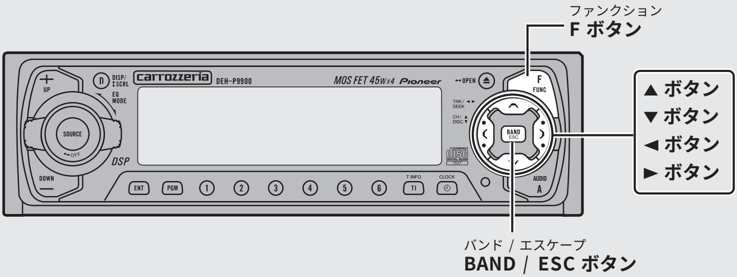


↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。。

メモ

- スキャン再生を始めた曲 (またはCD) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりスキャン再生します。



マルチCD 6 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD❹ 32 ページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

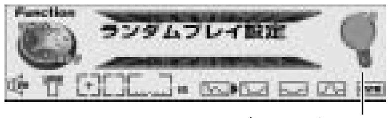
2 ランダムプレイ設定モードにする

F ボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD❸ 31 ページ)



3 ランダム再生を ON にする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで OFF)

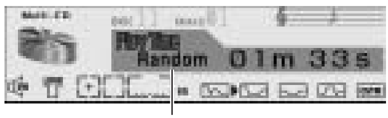


ライトが ON になります。

次の曲から、ランダムに選曲します。

↓

BAND/ESC ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



ランダム再生中に表示されます。

メモ

● トラックリピートのときに、ランダム再生を ON にすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

マルチCD 7 聞きたい曲だけ記憶させておく

ITS 登録

聞きたい曲だけ再生する (☞ **マルチCD❽ 36ページ**) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチCDに記憶させることができます。

ITSについて

ITSとは、Instant Track Selection (インスタント トラック セレクション) の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (☞ **マルチCD❽ 36ページ**) 機能です。

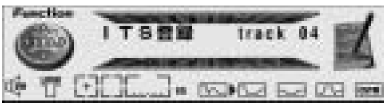
- ●曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。
- ●CD1枚につき24曲まで記憶できます。(25曲以上収録されているCDでは、25曲目以降に収録されている曲は記憶できません。)
- ●ITSは、タイトル (☞ **マルチCD⓫ 38ページ**) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。
- ●100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 記憶させたいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ ここだけで❹ 16ページ)

2 ITS登録モードにする

Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ (☞ **マルチCD❸ 31ページ**)



3 記憶させたい曲を選ぶ

◄または►ボタンを押す
(☞ ここだけで❹ 17ページ)



4 記憶させる

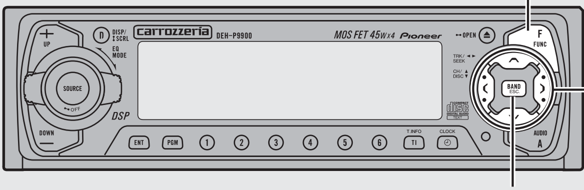
▲ボタンを押す



約2秒間表示され、記憶したことを知らせます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。



マルチCD 8 記憶させた曲だけ再生する

ITS 再生

ITS登録 (☞ **マルチCD❼ 35ページ**) で記憶させた曲だけを再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD❹ 32ページ)

選んだ再生範囲内でITS再生が行われます。

2 ITSプレイ設定モードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD❸ 31ページ)



3 ITS再生をONにする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)

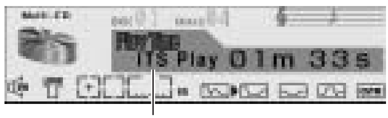


ライトがONになります。

ITS再生が始まり、記憶させた曲だけが再生されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



ITS再生中に表示されます。

メモ

● 手順1で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“ ITS Empty ” が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

マルチCD 9 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す

ITS消去（1曲ごと）

記憶させた曲を1曲ずつ消すことができま

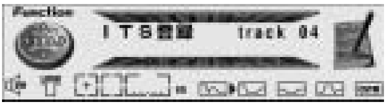
1 ITS再生をONにする
(☞ マルチCD❽)

2 消去したい曲を再生する

◄または►ボタンを押す
(☞ ここだけで❹ 17ページ)

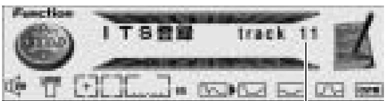
3 ITS登録モードにする

Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ (☞ マルチCD❸ 31ページ)



4 消去する

▼ボタンを押す



次に記憶されている曲

再生していた曲が記憶から消去され、次に記憶されている曲が再生されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

メモ

- 現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ ITS Empty ”が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

マルチCD 10 記憶させた曲をCDごとに記憶から消す

ITS消去（CDごと）

記憶させた曲をCDごとに消すことができま

1 消去したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ ここだけで❹ 16ページ)

ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。**(☞ マルチCD❽)**

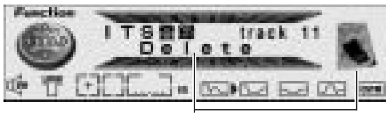
2 ITS登録モードにする

Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ (☞ マルチCD❸ 31ページ)



3 消去する

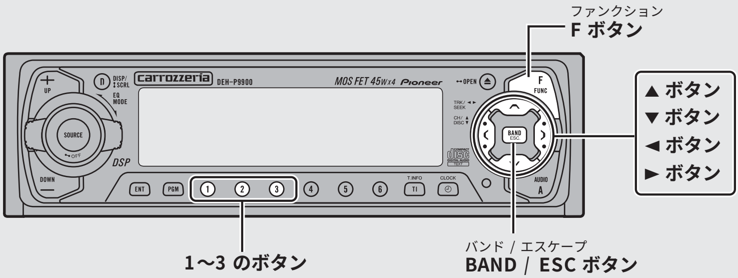
▼ボタンを押す



約2秒間表示され、消去されたことを知らせます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。



マルチCD 11 CD のタイトルを記憶させる

タイトル入力

CDのタイトルを表示させる (☞ **マルチCD⑫ 40ページ**) ために、あらかじめタイトルを入力して記憶させておきます。

タイトル表示について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

CDにタイトルをつけると、ディスクリスト (☞ **マルチCD⑭ 42ページ**) で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P650」など)では、「CD TEXT」に収録されているCDのタイトルを見てCDを探すことができます。(☞ **マルチCD⑭ 42ページ**)

- ●タイトルは、全角のカナやアルファベットで10文字まで入力できます。(半角入力はできません。)
- ●タイトルは、ITS (☞ **マルチCD⑦ 35ページ**) と合わせて100枚分のCDの記憶ができます。
- ●100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。
- ●タイトルの記憶は、CDごとに行われます。CDを取り出しても消えません。

1 タイトルを入力したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ **ここだけで❹ 16ページ**)

2 タイトル入力モードにする

Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ (☞ **マルチCD❸ 31ページ**)



ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P650」など)に「CD TEXT」をセットしているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できません。)

3 タイトルを入力する

■入力する位置を選ぶとき

◄または►ボタンを押して入力したい位置にカーソルを移動させる

►：右に移動させるとき
◄：左に移動させるとき



入力する位置でカーソルが点滅します。

全角で10文字まで入力できます。(半角入力はできません。)

■入力する文字を選ぶとき

▲または▼ボタンを押す

▲：次の文字を選ぶとき
▼：前の文字を選ぶとき



選んだ文字の種類が表示されます。

押すボタン	選べる文字
1ボタン (1ボタンを押すごとに切り換わります。)	アルファベットの小文字 (a～z)、空白 (_)
	アルファベットの大文字 (A～Z)、数字 (0～9)、記号 (!、#、&など) 空白 (_)
2ボタン	数字 (0～9)、記号 (!、#、&など)、空白 (_)
3ボタン (3ボタンを押すごとに切り換わります。)	カタカナ (ア～ン)、ハイフン (ー)、空白 (_)
	拗促音 (ァ、ョ、ッなど)、濁点、半濁点、空白 (_)

4 入力が終わったら 10文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

5 入力したタイトルを記憶する

►ボタンを押す



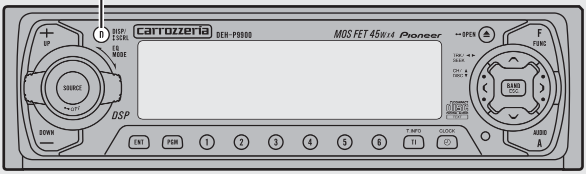
入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

メモ

● タイトル入力中（文字が点滅しているとき）にBAND/ESCボタンを押すと、詳細設定モードが途中で解除されます。(この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)



マルチCD 12 CDのタイトルを表示させる

ディスクタイトル表示

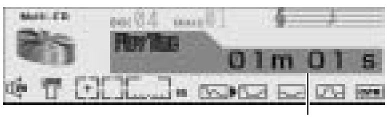
タイトル入力 (☞ **マルチCD⓫ 38ページ**) で入力したCDのタイトルを表示させることができます。

1 表示を切り換える

D ボタンを押す

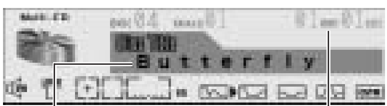
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間表示



↓

ディスクタイトル表示



↓

再生経過時間表示に戻る

メモ

● タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“ No Title ” が表示されます。

マルチCD 13 「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示させる

タイトル表示 / タイトルスクロール

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P650」など) に「CD TEXT」をセットしたとき、Disc Title (ディスク名) 、Disc Artist (歌手名) などを表示させることができます。一度に全角で10文字、半角で20文字表示することができます。また、隠れている文字も順に表示させることができます。

チェック ◆「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P650」など) の機能です。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記のマークのついているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)

COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT

●本機はカナやアルファベットなどの半角文字だけでなく、ひらがなや漢字などの全角文字にも対応しています。
「CD TEXT」に漢字などの全角文字の情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

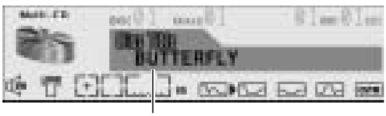
表示切り換え

1 表示を切り換える

D ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Play Time (再生経過時間)
↓
Disc Title (ディスク名)
↓
Disc Artist (歌手名)
↓
Track Title (曲名)
↓
Track Artist (歌手名)
↓
Play Time (再生経過時間) に戻る



再生中の「CD TEXT」に収録されているタイトルが表示されます。

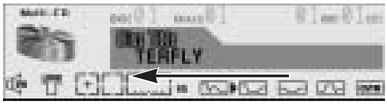
メモ

- Track Artist (歌手名) などが収録されていないCDで表示を切り換えると、“ No Artist Name ” などが表示されます。

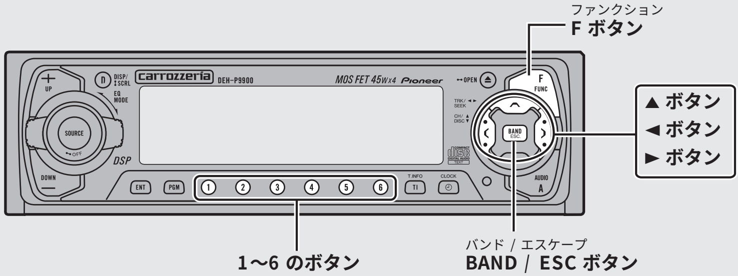
隠れている表示を表示する

1 隠れているタイトルを表示する

D ボタンを 2 秒以上押す



隠れている文字が順番に表示されます。



マルチCD 14 タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧 (ディスクリスト) を見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

1 ディスクリストモードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD❸ 31ページ)



2 聞きたいCDを選ぶ

◄または►ボタンを押す

►：次のCDのタイトルを選ぶとき
◄：前のCDのタイトルを選ぶとき



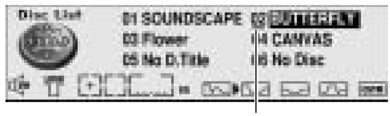
いま聞いているCDの番号の下に、“ _ ”が表示されます。

選んだCDのタイトルが反転表示されます。

タイトルの左の番号は、1〜6ボタンに対応しています。1〜6ボタンのいずれかを押して、聞きたいCDを直接選ぶこともできます。

3 選んだCDを再生する

▲ボタンを押す



選んだCDの番号の下に“ _ ”が移動して、そのCDが再生されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

- 12枚連奏マルチCDなどに接続した場合、7枚目以降のCDを選ぶときは、◄ または ► ボタンを押してディスプレイをスクロールさせることができます。次の6枚 (7〜12枚目) が表示され、手順2〜3と同じ操作で聞きたいCDを選ぶことができます。
- マルチCD内のトレイにCDが入っていないときは、“ No Disc ”が表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、“ No D.Title ”が表示されます。

マルチCD 15

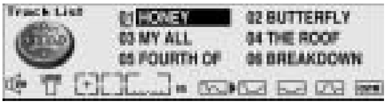
曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧 (トラックリスト) を見ながら、聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD❸ 31ページ)



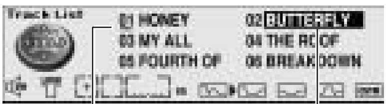
ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P650」など) に「CD TEXT」をセットしているときだけ、トラックリストモードに切り換わります。

2 聞きたい曲を選ぶ

◄または►ボタンを押す

► ：次の曲のタイトルを選ぶとき
◄ ：前の曲のタイトルを選ぶとき



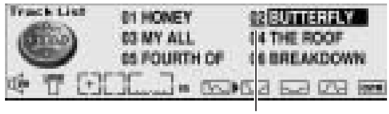
いま聞いている曲の番号の下に、“ _ ” が表示されます。

選んだ曲のタイトルが反転表示されます。

タイトルの左の番号は、1～6ボタンに対応しています。1～6ボタンのいずれかを押して、聞きたい曲を直接選ぶこともできます。

3 選んだ曲を再生する

▲ボタンを押す



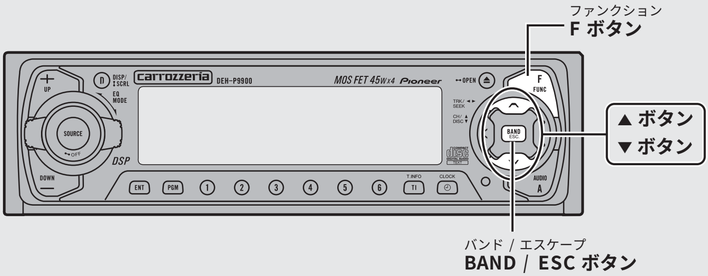
選んだ曲の番号の下に “ _ ” が移動して、その曲が再生されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

- 7曲目以降のCDを選ぶときは、◄ または ► ボタンを押してディスプレイをスクロールさせることができます。次の6曲 (7～12曲目) が表示され、手順2～3と同じ操作で聞きたい曲を選ぶことができます。
- 「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“ No T.Title ” が表示されます。



マルチCD 16 CD 再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

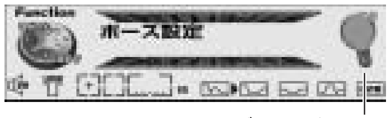
1 ポーズモードにする

F ボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD❸ 31 ページ)



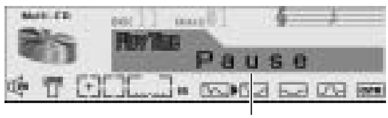
2 CD再生を一時停止する

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで再生)


ライトがONになります。

↓

BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。


一時停止中に表示されます。

マルチCD 17 CDの音質を調節する

コンプレッション / DBE

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック ◆ コンプレッション/DBE機能の付いたマルチCDプレーヤーで操作できます。

コンプレッションについて

コンプレッションは、大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス) の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定モードにする

Fボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD❸ 31ページ)



現在のコンプレッション/DBEの状態が表示されます。

ご注意

コンプレッション/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“ No Comp. ” が表示されて、操作ができません。

2 機能を選ぶ

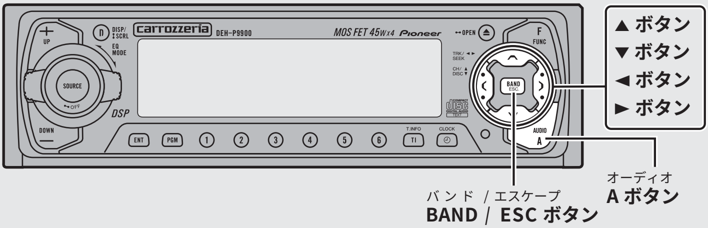
▲または▼ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Comp.OFF
↓
Comp.1 (コンプレッション1)
↓
Comp.2 (コンプレッション2)
↓
Comp.OFF
↓
DBE 1
↓
DBE 2
↓
Comp.OFFに戻る
↓
BAND/ESCボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

- コンプレッション、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。



音の調節 1 瞬時に音量を小さくする

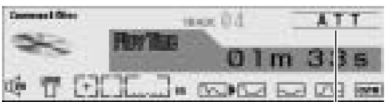
アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1 瞬時に音量を小さくする

リモコンのATTボタンを押す
(☞ はじめに❶ 7 ページ)

ボタンを押すごとにON/OFFします。



アッテネーターがONのとき点滅します。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

音の調節 2 オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

オーディオ調節モード1の切り換え

1 オーディオ調節モード1を切り換える

Aボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

音量バランス調節モード **(☞ 音の調節❸)**

↓

イコライザー調節モード
(☞ DSP調節❹ 59 ページ)

↓

イコライザー13バンド調節モード
(☞ DSP調節❺ 60 ページ)

↓

SFC/OCTモード **(☞ DSP調節❷ 57 ページ)**

↓

リスニングポジションセレクターモード
(☞ DSP調節❻ 61 ページ)

↓

音量バランス調節モードに戻る

メモ

- オーディオ調節モード1を解除するには、BAND/ESCボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)
- CUSTOMのイコライザーカーブ **(☞ DSP調節❸ 58 ページ)** を選んでいるときだけ、イコライザー13バンド調節モードに切り換わります。

(つづき)

オーディオ調節モード 2 の切り換え

1 オーディオ調節モード 2 にする

A ボタンを 2 秒以上押す

2 オーディオ調節モード 2 を切り換える

A ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

サブウーファーモード (☞ **音の調節❽ 52 ページ**)
↓
サブウーファー調節モード
(☞ **音の調節❽ 52 ページ**)
↓
ノンフェーディングモード
(☞ **音の調節❼ 51 ページ**)
↓
ノンフェーディング調節モード
(☞ **音の調節❼ 51 ページ**)
↓
ハイパスフィルターモード
(☞ **音の調節❺ 49 ページ**)
↓
ラウドネスモード (☞ **音の調節❹ 48 ページ**)
↓
ASL モード (☞ **音の調節❾ 54 ページ**)
↓
SLA モード (☞ **音の調節❿ 55 ページ**)
↓
サブウーファーモードに戻る

メモ

- オーディオ調節モード 2 を解除するには、BAND/ESCボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)
- ノンフェーディングモードは、サブウーファーコントロール設定 (☞ **その他⓫ 73 ページ**) を " External " にしているときだけ切り換わります。また、ノンフェーディングをONにしているときだけノンフェーディング調節モードに切り換わります。
- サブウーファーモードは、サブウーファーコントロール設定 (☞ **その他⓫ 73 ページ**) を " External " 以外にしているときだけ切り換わります。また、サブウーファーをONにしているときだけサブウーファー調節モードに切り換わります。
- ラジオのFM放送を聞いているときは、SLAモードには、切り換わりません。

音の調節 3 前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー / バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節モードにする

A ボタンを押して選ぶ
(☞ **音の調節❷**)



2 音量バランスを調節する

■前後を調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：前を強めるとき
▼：後ろを強めるとき



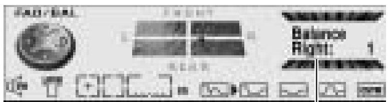
調節した方向に移動します。

Front:15～Rear:15の範囲で調節できます。

■左右を調節する

◄または►ボタンを押す

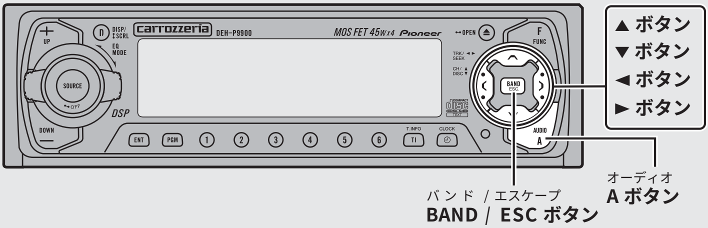
►：右を強めるとき
◄：左を強めるとき



Right:9～Left:9の範囲で調節できます。
↓
BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード1を解除してください。

メモ

- リアスピーカー出力設定 (☞ **その他❿ 73 ページ**) を " Sub woofer output " にしているときは、前後の音量バランスを調節することはできません。



音の調節 4

小音量時の音にメリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモードにする

A ボタンを 2 秒以上押してから、A ボタンを押して選ぶ (☞ 音の調節❷ 47 ページ)



2 ラウドネスを ON にする

▲ボタンを押す (▼ボタンで OFF)

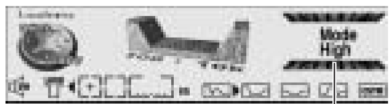


ラウドネスが ON のとき表示されます。

3 ラウドネスの効果を選ぶ

◄または►ボタンを押す

►：効果を大きくするとき
◄：効果を小さくするとき



Low (弱)、Mid (中)、High (強)の中から選ぶことができます。

↓

BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モード 2 を解除してください。

音の調節 5 低い音をスピーカーから出力させないようにする

ハイパスフィルター (HPF)

ハイパスフィルターをONにすると、選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されないようになります。

ハイパスフィルター (HPF) について

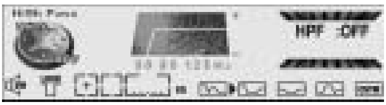
ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域（低域）をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調整することができます。

カットオフ周波数について

50、80、125 (単位：Hz) から選んだ周波数より高い周波数の音域が各スピーカーから出力されます。

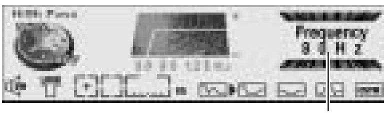
1 ハイパスフィルターモードにする

Aボタンを2秒以上押してから、Aボタンを押して選ぶ (☞ 音の調節❷ 47ページ)



2 ハイパスフィルターをONにする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)

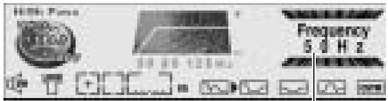


ONにすると表示されます。

3 ハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◄または►ボタンを押す

►：高い周波数を選ぶとき
◄：低い周波数を選ぶとき



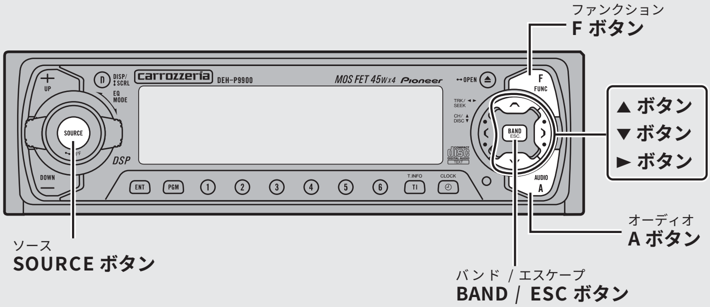
50、80、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

選んだ周波数より高い周波数の音だけが、各スピーカーから出力されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード2を解除してください。

音を調節する



音の調節 6 サブウーファーの接続方法に合わせた設定にする

サブウーファーの接続のしかたによって、「リアスピーカー出力設定」や「サブウーファーコントロール設定」を変える必要があります。接続方法に合わせて、下記の操作を行ってください。

本機のリアスピーカー端子にサブウーファーを接続した場合

1. 電源OFF にする
SOURCEボタンを2秒以上押す

2.「リアスピーカー出力設定」にする
Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンで選ぶ

3. " Sub woofer output " にする
▼ボタンを押す (☞ **その他⑩ 73 ページ**)

4. BAND/ ESC ボタンを押して、モードを解除する

5. 電源ON にする
SOURCEボタンを押す

6. サブウーファーモードにする
Aボタンを2秒以上押してから、Aボタンで選ぶ

7. " Sub.W: ON " にする
▲ボタンを押す

必要に応じてカットオフ周波数やレベルを調節してください。 (☞ **音の調節❽ 52 ページ**)

RCA 出力を使用し、外部アンプにサブウーファーを接続した場合

■本機でサブウーファーを調節する場合

1. サブウーファーモードにする
Aボタンを2秒以上押してから、Aボタンで選ぶ

2. " Sub.W: ON " にする
▲ボタンを押す

必要に応じて位相/カットオフ周波数/レベルを調節してください。(☞ **音の調節❽ 52 ページ**)

■外部アンプでサブウーファーを調節する場合

1. 電源OFF にする
SOURCEボタンを2秒以上押す

2.「サブウーファーコントロール設定」にする
Fボタンを2秒以上押してから、Fボタンで選ぶ(☞ **その他⑪ 73 ページ**)

3. " External " にする
►ボタンを押す

4. BAND/ ESC ボタンを押して、モードを解除する

5. 電源ON にする
SOURCEボタンを押す

6. ノンフェーディングモードにする
Aボタンを2秒以上押してから、Aボタンで選ぶ

7. " Non Fading OFF " を " Non Fading ON " にする
▲ボタンを押す

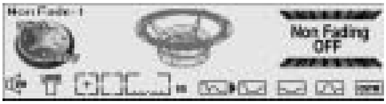
音の調節 7 外部アンプなどでサブウーファーを調節する

ノンフェーディング

本機のローパスフィルターを通さずに、原音のままRCA出力から音声信号を出力することができます。また、その出力レベルを調節することもできます。

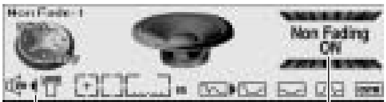
1 ノンフェーディングモードにする

Aボタンを2秒以上押してから、Aボタンを押して選ぶ (☞ 音の調節❷ 47ページ)



2 ノンフェーディングをONにする

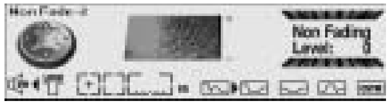
▲ボタンを押す(▼ボタンでOFF)



ノンフェーディングがONときに表示されます。

3 ノンフェーディング調節モードにする

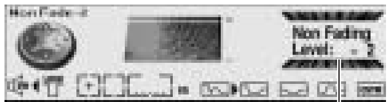
Aボタンを押して選ぶ
(☞ 音の調節❷ 47ページ)



4 レベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき



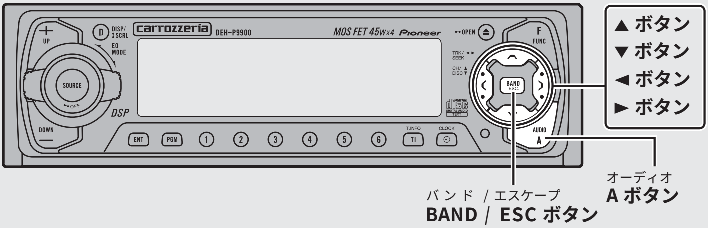
0〜−15の範囲で調節できます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード2を解除してください。

メモ

- サブウーファーコントロール設定を“External”にしたときだけ、ノンフェーディングモードに切り換わります。 (☞ **その他⓫ 73ページ**)
- ノンフェーディングをOFFにしたときは、ノンフェーディング調節モードには切り換わりません。
- ノンフェーディングのレベルは、初期設定時に最大値“0”で設定されています。



音の調節 8 サブウーファーを使う

サブウーファー

本機では、リアスピーカー端子または、RCA 出力端子に RCA コードを使って接続したサブウーファーの調節を行うことができます。

位相切り換えについて

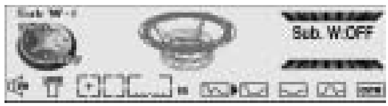
サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアースピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転 (干渉) すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相 (フロント/リアースピーカーと同時に出力される) が良いか、逆相 (フロント/リアースピーカーとタイミングをずらして出力される) が良いかを選んで設定してください。

カットオフ周波数について

50、80、125 (単位 : Hz) から選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

1 サブウーファーモードにする

A ボタンを 2 秒以上押してから、A ボタンを押して選ぶ (☞ 音の調節❷ 47 ページ)



2 サブウーファーを ON にする

▲ ボタンを押す（▼ ボタンで OFF）



サブウーファーが ON のときに表示されます。

3 位相を切り換える

◄または►ボタンを押す

◄：Phase:REV (逆相)
►：Phase:NOR (正相)



REVとNORに切り換えることができます。

4 サブウーファー調節モードにする

Aボタンを押す



5 カットオフ周波数とレベルを調節する

■周波数を選ぶとき

◄または►ボタンを押す

►：高い周波数を選ぶとき
◄：低い周波数を選ぶとき



50、80、125 (単位：Hz) の中から選ぶことができます。

■レベルを調節するとき

▲または▼ボタンを押す

▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき



レベルは－6～＋6の範囲で調節できます。

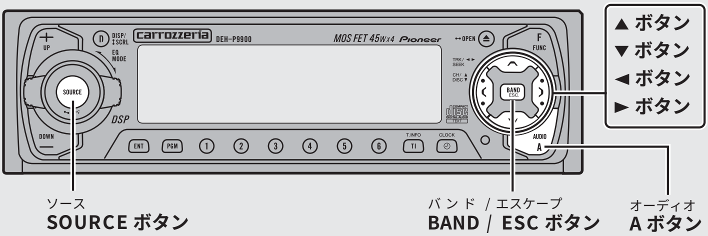
↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード2を解除してください。

メモ

- サブウーファーコントロール設定を“ External ”にしているときは、サブウーファーモードに切り換わりません。
- サブウーファーをOFFにしているときは、サブウーファー調節モードに切り換わりません。

音を調節する



音の調節 9 騒音に合わせて音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

ASLについて

ASLとは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー) の略です。

ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASLモードにする

Aボタンを2秒以上押してから、Aボタンを押して選ぶ (☞ 音の調節❷ 47ページ)



2 ASLをONする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)



ASLがONのときASLインジケーターが表示されます。

3 ASLの感度を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

▶：感度を高くするとき
◀：感度を低くするとき



Low、Mid-Low、Mid、Mid-High、Highの中から選ぶことができます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード2を解除してください。

メモ

- 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても、音量の上げ幅は小さくなります。
- この機能が働いて音量が上がりすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときは−ボタンで音量を下げてください。

音の調節 10 各ソースの音量の違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

1 FM放送を受信し、FMの音量を確かめる

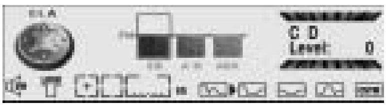
SOURCEボタンを押す
(☞ ここだけで❸ 14ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCEボタンを押す
(☞ ここだけで❶ 10ページ)

3 SLAモードにする

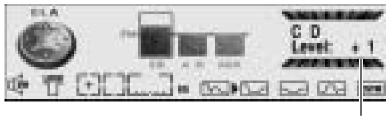
Aボタンを2秒以上押してから、Aボタンを押して選ぶ (☞ 音の調節❷ 47ページ)



4 レベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

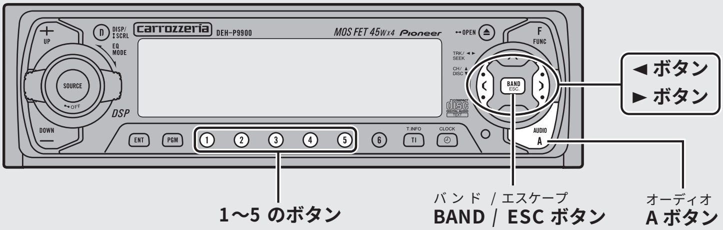
▲：レベルを大きくするとき
▼：レベルを小さくするとき



－4～＋4の範囲で調節できます。
↓
BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード2を解除してください。

メモ

- SLAとはSource Level Adjuster (ソースレベルアジャスター) の略です。
- FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。
- AM、テレビ、CD、MD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) の音量差をそれぞれ調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、1枚型MDとマルチMD、AMと交通情報 (☞ その他❸ 68ページ) は、それぞれ同じ設定になります。



DSP調節 1 DSP を使う

DSP

リアルな音場を再現したり、音響特性を補正したりして、リスニング環境をつくります。

DSPについて

DSPをお使いになると、リアルな音場の再現と同時に、車内の音響特性をフラットに補正し、理想的なリスニング環境を創造することができます。

DSPは、次の4つの機能を持っています。

●SFC

●Octaver

●イコライザー

●リスニングポジションセレクター

DSPは、これらの機能を同時に使いこなすことで、豊かな音場と適切な音響特性を与えてくれます。

■イコライザーについて

車内空間は、その広さや複雑な形状・材質により、反射音に乱れを生じます。このためスピーカーから出た音には、周波数特性にピーク (強調) やディップ(減衰) が生じます。イコライザー機能は、周波数のレベルを自在に調節できるので、車内の音響特性をよりフラットに補正することができます。

■リスニングポジションセレクターについて

リスニングポジションセレクターは、ワンタッチで選ばれた座席位置や人数に合わせて、自動的に各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調節する機能です。この機能とSFCを組み合わせると、自然なリスニングポジションが得られるので、全身を包むような豊かな音場を体感することができます。

■SFCについて

SFCとはSound Field Control (サウンドフィールド コントロール) の略です。

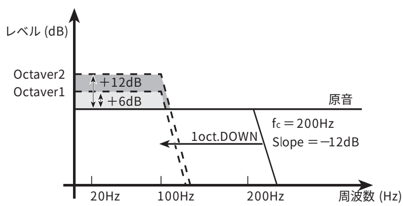
演奏会場での直接音・初期反射音・残響音の長さや質は、会場の広さや形状によって違ってくるため、その響きにはいろいろなものがあります。

SFCには、Studio、Jazz Club、Clubの3つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。まるでその演奏会場にいるようなリアルな音場を体感することができます。

■Octaverについて

Octaver (OCT) は、原音の200 Hz 以下の周波数帯域の1オクターブ下の音 (100 Hz以下の周波数帯域) を作り出します。それを原音に加算することによって、サブウーファーから出力される重低音を強調する効果があります。

Octaver2 (加算レベル＋12 dB) の方がOctaver1 (加算レベル＋6 dB) より低音を強調する効果があります。



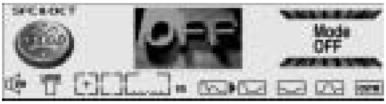
イメージに合った演奏会場を再現する

SFC / OCT

SFCで実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、Octaverで低音を強調し重量感のある音を聞くことができます。

1 SFC / OCTモードにする

Aボタンを押して選ぶ
(☞ 音の調節❷ 46ページ)



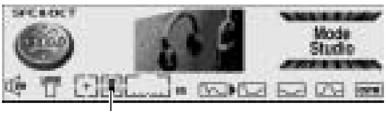
2 音場プログラムを選ぶ

■音場プログラムを直接呼び出す

1～5のボタンを押す(同じボタンをもう一度押すとOFF)

■音場プログラムを順番に呼び出す

◄または►ボタンを押す



SFC/OCTがONのとき表示されます。

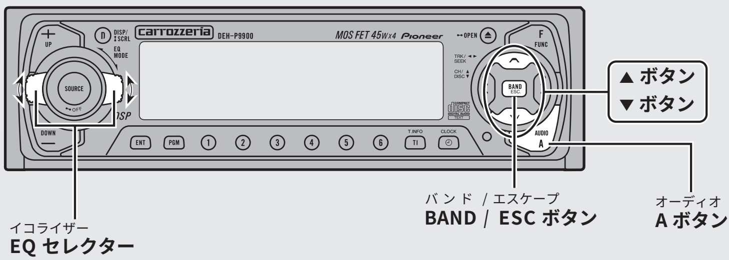
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

OFF ⟷ Studio
↕ ↕
Octaver2 Jazz Club
↕ ↕
Octaver1 ⟷ Club
↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード1を解除してください。

SFC (ボタン)	説明
Studio (1ボタン)	CDのような音楽ソースを録音する場所である録音スタジオモニタールームを再現しています。音像を正面に定位し、残響音は付加しません。比較的狭いミキシングルーム壁面からの初期反射音を処理することで、基本的な音場を再現しています。
Jazz Club (2ボタン)	50人～100人程度のジャズクラブで音楽を楽しめる空間をイメージしています。ライブ録音のソースなどに効果を発揮します。壁面からの反射音と残響音をリアルに再現しています。
Club (3ボタン)	50人程度入れるディスコを再現しています。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに最適です。

Octaver（ボタン）	説明
Octaver1 (4ボタン)	サブウーファー帯域の重低音を補うことで、低音を強調した重量感のある音で聞くことができます。 Octaver2の方がOctaver1より低音を強調する効果があります。
Octaver2 (5ボタン)	



DSP調節 3 イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中からお好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

1 イコライザーカーブを選ぶ

EQ セレクターを上下に動かす



選んだイコライザーカーブが表示されます。

EQセレクターを上下に動かすと次のように切り換わります。

POWERFUL ⟷ SUPER BASS
↕ ↕
NATURAL FLAT
↕ ↕
VOCAL ⟷ CUSTOM
(☞ **DSP調節❺ 60ページ**)

メモ

- “ CUSTOM ” には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。
- イコライザー調節モードから、◄または►ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。
- 交通情報 (☞ **その他❸ 68ページ**) を受信しているときは、イコライザーカーブを選ぶことはできません。

DSP調節 4 イコライザーカーブを大まかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、お好みの音質をつくることができます。

1 調節したいイコライザーカーブに切り換える

EQセレクターを上下に動かす
(☞ DSP調節❸)

2 イコライザー調節モードにする

Aボタンを押して選ぶ
(☞ 音の調節❷ 46ページ)



オートイコライジングが正常に終了したあとに“ AUTO EQ ”が表示されます。

3 イコライザーカーブを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：強めるとき
▼：弱めるとき



－６～＋６の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード１を解除してください。

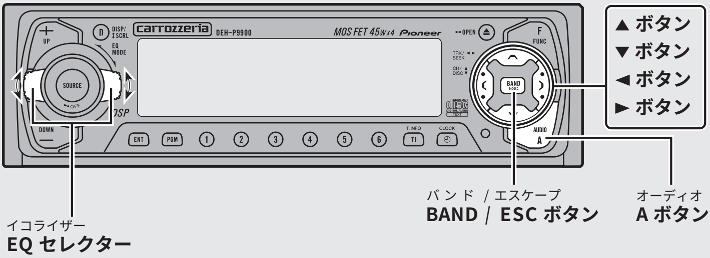
メモ

- イコライザー調節モード中に、以下の方法でイコライザーカーブを呼び出すこともできます

  ＊◄または►ボタンで呼び出す
  ＊１～６ボタンで直接呼び出す

ボタン	ｲｺﾗｲｻﾞｰｶｰﾌﾞ	ボタン	ｲｺﾗｲｻﾞｰｶｰﾌﾞ
1	SUPER BASS	2	POWERFUL
3	NATURAL	4	VOCAL
5	CUSTOM	6	FLAT

- イコライザー調節モードのときに、１～６ボタンを押すとイコライザーカーブを直接選ぶことができます。
- オートイコライジング (☞ **DSP調節❽ 64ページ**) が正常に終了したあとは、選んでいるイコライザーカーブの数字のボタンを押すごとに“ AUTO EQ ”がON / OFFされます。
- “ AUTO EQ ”にすると、オートイコライジングにより乱れの少ない滑らかな特性になったイコライザーカーブを呼び出すことができます。また、そのイコライザーカーブを調節することができます。
- ５ボタンを２秒以上押すと、選んだイコライザーカーブは、“ CUSTOM ”にコピーされます。
- “ CUSTOM ”を選ぶには (☞ **DSP調節❸**)
- 交通情報 (☞ **その他❸ 68ページ**) を受信しているときは、イコライザーカーブを選ぶことはできません。



DSP 調節 5

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

1 イコライザーカーブを CUSTOM にする

EQ セレクターを上下に動かす

(☞ DSP 調節❸ 58 ページ)

2 イコライザー13 バンド調節モードにする

A ボタンを押して選ぶ

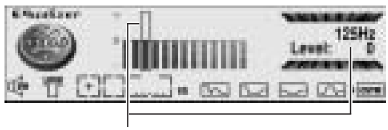
(☞ 音の調節❷ 46 ページ)



3 各周波数ごとのレベルを調節する

■周波数を選ぶ

◀または▶ボタンを押す



選んだ周波数が表示されます。

選べる周波数 (Hz)
50、80、125、200、315、500、800、1.3k、2k、3.2k、5k、8k、12.5k

■レベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：強めるとき
▼：弱めるとき



－6～＋6の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード1を解除してください。

メモ

- イコライザーカーブを調節すると、“ CUSTOM ” に記憶されます。
- “ CUSTOM ” を選ぶには (☞ **DSP調節❸ 58ページ**)
- 交通情報 (☞ **その他❸ 68ページ**) を受信しているときは、イコライザーカーブを選ぶことはできません。

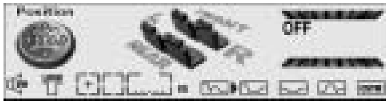
DSP調節 6 音場の中心で聞く

リスニングポジションセレクター

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。

1 リスニングポジションセレクターモードにする

A ボタンを押して選ぶ
(☞ **音の調節❷ 46ページ**)

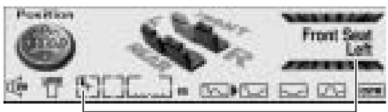


2 乗車位置を選ぶ

▲、▼、◄、►ボタンを押す (もう一度同じボタンを押すとOFF)

▲：Front Seat Right & Left
▼：All Seats
►：Front Seat Right
◄：Front Seat Left

表示	乗車位置
Front Seat Right & Left	同乗者が助手席にいるとき
All Seats	同乗者が後部座席にいるとき
Front Seat Right	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front Seat Left	左ハンドル車に運転者のみがいるとき



選んだ乗車位置が表示されます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、オーディオ調節モード1を解除してください。

メモ

- リアスピーカー出力設定 (☞ **その他⓾ 73ページ**) を “ Sub woofer output ” にしているときは、“ Front Seat Right ” と “ Front Seat Left ” 以外の乗車位置を選ぶことはできません。

DSP調節 7 オートイコライジングを行う前に

オートイコライジングを行う前に必ずお読みください。

⚠ 警告

走行中にオートイコライジングを行わない

禁止

自動車が走行中にオートイコライジングを行わないでください。オートイコライジング機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態でオートイコライジングを行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。オートイコライジングを行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
  (例：サブウーファー出力にリアースピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

オートイコライジング機能について

- 車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。
- 本機のオートイコライジング機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、オートイコライジングにより乱れの少ない滑らかな特性になった上でイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。)

オートイコライジングを行う前にお読みください

●オートイコライジングは、なるべく静かな所で、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからオートイコライジングを行ってください。計測音以外の音（車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など）によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。

●オートイコライジングは、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、オートイコライジングが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。

●フロントスピーカーとリアースピーカーが、どちらも接続されていない場合は、オートイコライジングが実行できません。（どちらかが接続されていれば、オートイコライジングが実行できます。）

●入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合に、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、オートイコライジングが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。

●オートイコライジングを行うと、オーディオメニュー1と2の内容が次の様に変更されます。

＊前後左右の音量バランス調節（フェーダー/バランス）の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。

＊イコライザーカーブは、フラット(FLAT)に設定されます。

＊リスニングポジションセレクターは、Front-Seat-Rightに設定されます。（ただし、Front-Seat-Leftに設定していたときだけは、Front-Seat-Leftのままになります。）

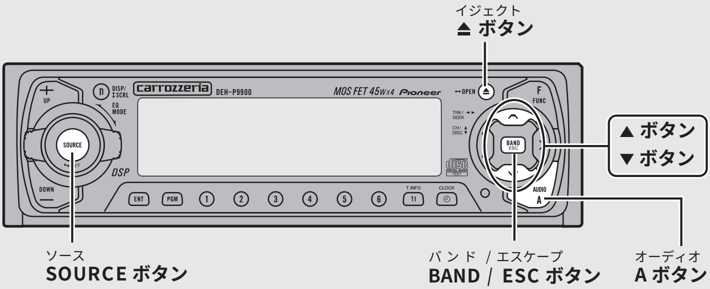
＊サブウーファーを接続しているときは、サブウーファー出力とHPFの設定が調節されます。（サブウーファー出力をOFFにしていても、自動的にONになり調節されます。）

＊サブウーファーを接続しているときは、ノンフェーディング出力の設定が調節されます。（ノンフェーディング出力をOFFにしていても、自動的にONになり調節されます。）

オートイコライジングの調節内容について

●一度オートイコライジングを行った後に、リアスピーカー出力設定やサブウーファーコントロール設定を切り換えると、オートイコライジングの調節内容が消去されます。再度、オートイコライジング調節を行ってください。

●一度オートイコライジングを行った後に、再度オートイコライジングを行った場合は、前のオートイコライジングの調節内容は消去されます。



DSP調節 8 オートイコライジングを行う

オートイコライジングの調節

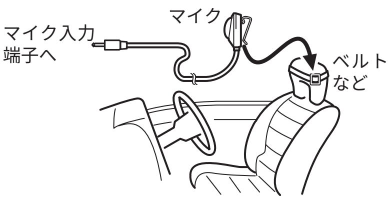
車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

- 静かな所に車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属マイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACC またはON にする

ご注意

車のエアコンやヒーターがON になっている場合は、OFF にしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってオートイコライジングが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセレクターモードにして、乗車位置を、マイクをセットした座席に設定する。(☞ DSP調節❻ 61 ページ)

メモ

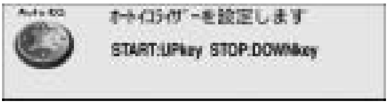
- 乗車位置をFront-Seat-Right またはFront-Seat-Left 以外に設定したときは、オートイコライジングを始めると、強制的にFront-Seat-Right に再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

7 オートイコライジングモードにする

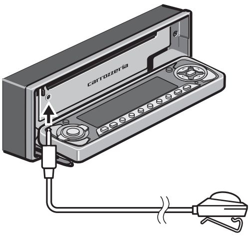
A ボタンを 2 秒以上押す



フロントパネルが自動的に開きます。

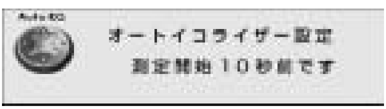
8 マイクを本機に接続する

付属のマイクをマイク入力端子に接続する



9 オートイコライジングを始める

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで途中解除)



ご注意

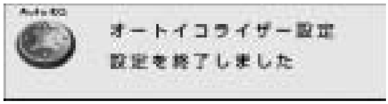
オートイコライジングを行っているときは、CD の挿入などでソース切り換えをしないでください。DSP の設定が変わってしまいます。

10 車外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音 (ノイズ) が各スピーカーから出力され、オートイコライジング (音響特性の測定および補正) が始まります。

11 オートイコライジングが自動的に終了する



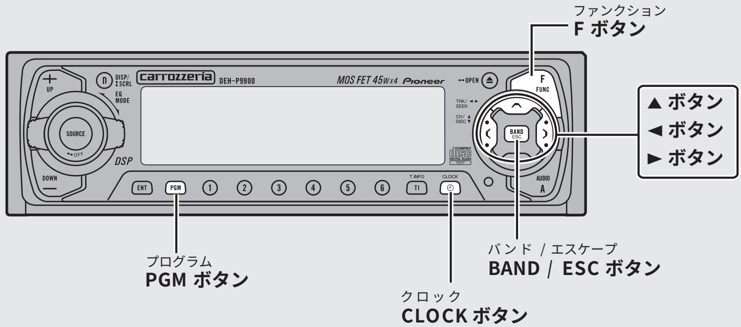
オートイコライジング操作が終わったらセットしたマイクを取り外し、BAND/ESC ボタンを押して電源を切り、⏏ ボタンを 2 秒以上押してフロントパネルを元の位置に戻してください。オートイコラジングが正常に終了したあとに再び電源 ON にするとディスプレイ下部に “AUTO EQ” が表示されます。

注意

- フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。
- フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

メモ

- オートイコライジングを途中でやめたくなったときは、BAND/ESC ボタンを押してください。強制的に解除して、電源 OFF になります。
- マイクをセットする位置により、オートイコライジングの調節内容が変わります。
  お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。



その他 1 よく使う機能を学習させる

プログラムファンクション

よく使う機能をソースごとに、PGM ボタンに学習させることができます。学習させた機能は、モードを切り換えなくても操作できるようになります。(初期設定では、内蔵 CD でポーズ、ラジオで BSM、マルチ CD でポーズが学習されています。)

内蔵CDのとき

1 プログラムファンクション設定モードにする

F ボタンを 2 秒以上押す

(☞ 内蔵 CD❶ 18 ページ)



2 学習させたい機能を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Pause (ポーズ)
↕
Repeat (リピート)
↕
Random (ランダム)

3 選んだ機能を学習させる

▲ ボタンを押す



“ OK ” が表示され、選んだ機能が学習されます。

↓

BAND/ESC ボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

4 学習させた機能を操作する

PGM ボタンを押す

学習させた機能により、操作方法が以下のようになります。

学習できる機能	押す	2 秒以上押す
ポーズ	ON/OFF	——
リピート	ON/OFF	——
ランダム	ON/OFF	——

ラジオのとき

ラジオでは、初期設定のBSM以外の機能を学習させることはできません。PGMボタンを押したときの動作は、以下のようになります。

学習できる機能	押す	2秒以上押す
BSM	OFF	ON

マルチCDのとき

マルチCDで、プログラムファンクション設定モードにするには、Fボタンを2秒以上押して詳細設定モードにしてから、Fボタンで選びます。(☞ **マルチCD❸ 31ページ**) マルチCDで学習できる機能と、PGMボタンを押したときの動作は、以下のようになります。

学習できる機能	押す	2秒以上押す
ポーズ	ON/OFF	——
リピート	切り換え	——
ランダム	ON/OFF	——
リスト	ディスクリストモードになる	——
ITS	登録	再生

その他 2

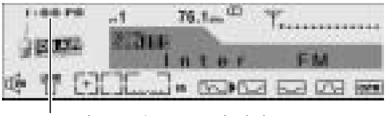
時計を表示させる

時計表示

本機の電源がONのときに、時計を表示させることができます。

1 時計を表示する

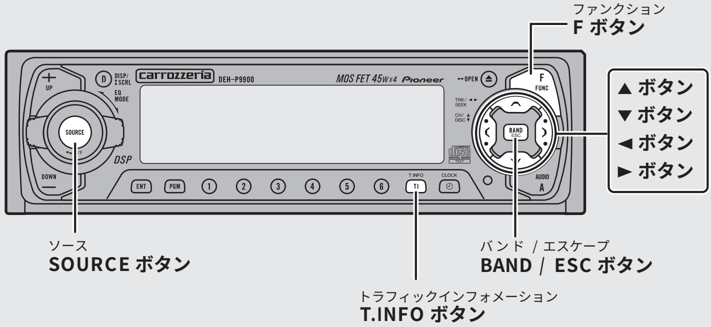
CLOCKボタンを押す



ボタンを押すごとに、時計表示とソース名が切り換わります。

メモ

● 時計を表示した状態で電源をOFFにしてから、6ボタンを押してデモモードをOFFにすると、ディスプレイにカレンダーと時計を表示することができます。CLOCKボタンを押すごとに時計表示がON/OFFします。



その他 3 交通情報を受信する

AM 1,620 kHzまたは1,629 kHzの交通情報を、簡単に受信することができます。

1 交通情報を受信する

T.INFO ボタンを押す

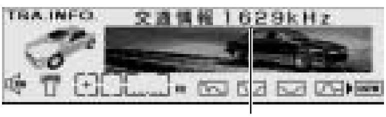


交通情報を受信します。

2 放送に合わせて周波数を切り換える

◄または►ボタンを押す

►：1,629 kHzにするとき
◄：1,620 kHzにするとき



周波数が切り換わります。

3 交通情報の受信をやめる

T.INFO ボタンを押す

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

- この機能は、電源がOFFのときでも、どのソースからでも操作できます。
- 交通情報を受信しているときは、＋ボタン、－ボタンを押して交通情報用の音量を設定することができます。別のソースに切り換えて音量を調節しても、次に交通情報を受信するときは前回設定した音量で聞くことができます。
- 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブを選ぶことはできません。

その他 4

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やディマーなどの設定をするときは初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源を OFF にする

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す
(☞ ここだけで❶ 10 ページ)

2 初期設定モードにする

電源が OFF のときに、F ボタンを 2 秒以上押す

3 初期設定モードを切り換える

F ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

カレンダー・時計調整モード **(☞ その他❺)**
↓
AUX (外部機器) モード
(☞ その他❼ 71 ページ)
↓
リアスピーカー出力設定モード
(☞ その他❿ 73 ページ)
↓
サブウーファーコントロール設定モード
(☞ その他⓫ 73 ページ)
↓
オートアンテナモード **(☞ その他❻ 70 ページ)**
↓
ディマーモード **(☞ その他❾ 72 ページ)**
↓
デジタルアッテネーター設定モード
(☞ その他⓬ 74 ページ)
↓
壁紙選択モード **(☞ その他⓭ 75 ページ)**
↓
ブライトモード **(☞ その他⓮ 75 ページ)**
↓
カレンダー・時計調節モードに戻る

メモ

- 初期設定モードを解除するには、BAND/ESC ボタンを押します。(解除すると電源が OFF になります。)
- リアスピーカー出力設定モードで、“ Sub woofer output ” を選んだときは、サブウーファーコントロール設定モードには切り換わりません。

その他 5

時計や日付を合わせる

カレンダー・時計合わせ

時計や日付を合わせることができます。

1 カレンダー・時計調節モードにする

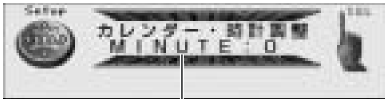
電源が OFF のときに、F ボタンを 2 秒以上押す **(☞ その他❹)**



2 カレンダー・時計の設定をする

■設定する項目を選ぶ

◄ または ► ボタンを押す



押すごとに、年、月、日、時、分が順に切り換わります。

■数値を設定する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲：数字が増加します
▼：数字が減少します
(押し続けると連続して数値を送ることができます。)



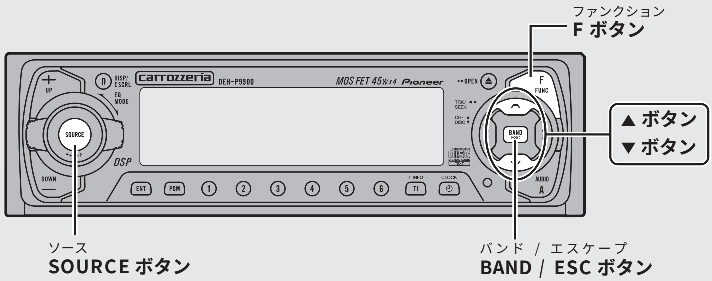
分を調節すると、0 秒からカウントが始まります。

↓

BAND/ESC ボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

- 時計を表示した状態で電源を OFF にしてから、6 ボタンを押してデモモードを OFF にすると、ディスプレイにカレンダーと時計を表示することができます。CLOCK ボタンを押すごとに時計表示が ON/OFF します。



その他 6 テレビのときにオートアンテナをのばす

オートアンテナの設定

パイオニア製のテレビ（7.0型ワイドAVシステムTV「AVX-P7000W」など）を接続した場合、ソースをテレビにしたときも、車に装備されているオートアンテナをのばすことができます。

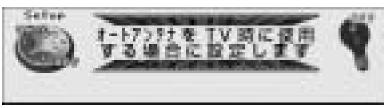
オートアンテナの設定について

- 設定がOFFのときは、ソースをラジオにしたときだけ、オートアンテナがのびます。
- 設定をONにすると、ソースをテレビにしたときも、オートアンテナがのびるようになります。

ラジオとテレビでオートアンテナを共用するときは、設定をONにしてください。

1 オートアンテナモードにする

電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ
(☞ その他❹ 69ページ)



2 オートアンテナの設定をONにする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)



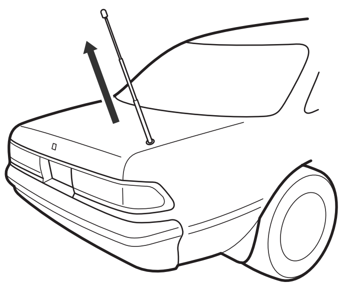
ライトがONになります

↓

BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

3 ソースをテレビにする

SOURCEボタンを押して選ぶ
(☞ ここだけで❶ 10ページ)



オートアンテナがのびるようになります。

その他 7 外部機器の音声を聞く

AUX (外部機器) の設定

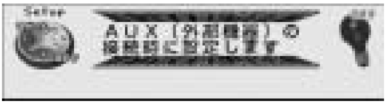
本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。
詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 AUX (外部機器) モードにする

電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ
(☞ その他❹ 69ページ)



2 AUX (外部機器) の設定をONにする

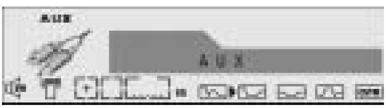
▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



ライトがONになります
↓
BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

3 ソースをAUXにする

SOURCEボタンを押して選ぶ
(☞ ここだけで❶ 10ページ)



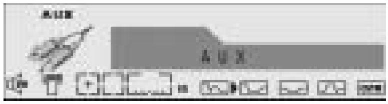
ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。

その他 8 外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

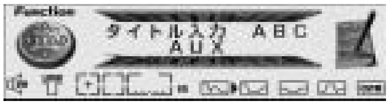
1 ソースをAUXにする

SOURCEボタンを押して選ぶ
(☞ ここだけで❶ 10ページ)



2 外部機器の名称入力モードにする

Fボタンを2秒以上押す



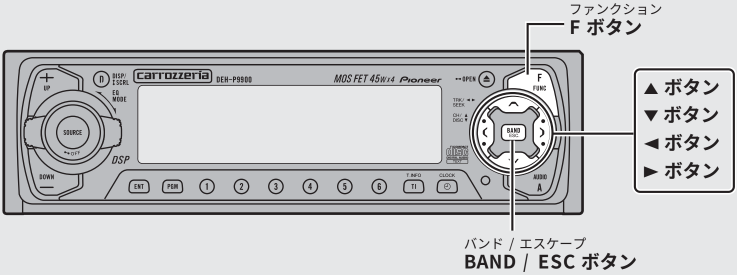
3 外部機器の名称を入力し、記憶させる (☞ マルチCD⓫ 38ページ)

CDタイトル入力の手順3～5を参照し、同じ操作で外部機器の名称を記憶させてください。

例) “ DAT ” を記憶させた場合



“ AUX ” の表示のかわりに、記憶させた名称が表示されます。



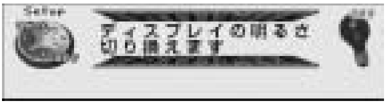
その他9 夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマーの設定

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなります。

1 ディマーモードにする

電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ
(☞ その他❹ 69ページ)



2 ディマーの設定をONにする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)



ライトがONになります

↓

BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

● 車のライトをONにしてディマーが働いているときでも、ブライトモード (☞ **その他⓮ 75ページ**) でディスプレイの明るさを“0”に調節しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

その他 10 リアスピーカーの出力方法を変える

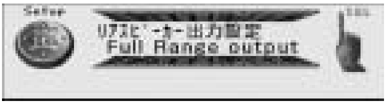
リアスピーカー出力の設定

リアスピーカー端子に接続するスピーカーの種類が選べます。フルレンジスピーカーを接続する場合は、“ Full Range output ” に切り換えます。また、サブウーファーを接続する場合は、“ Sub woofer output ”に切り換えます。

1 リアスピーカー出力設定モードにする

電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ

(☞ その他❹ 69ページ)

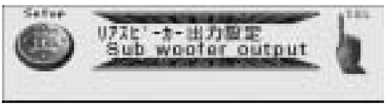


2 スピーカー出力方法を選ぶ

▲または▼ボタンを押す

▲：Full Range output (フルレンジのとき)

▼：Sub woofer output (サブウーファーのとき)



↓

BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

● リアスピーカー出力設定についての詳細は **(☞ 音の調節❻ 50ページ)**

その他 11 サブウーファーの調節先を選ぶ

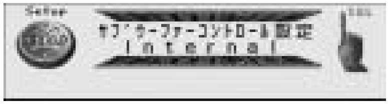
サブウーファーコントロール設定

RCA出力にてサブウーファーを接続する場合、本機のオーディオ調節モードでサブウーファーを調節する “ Internal ” と、組み合わせる外部アンプにてサブウーファーを調節する “ External ” が選べます。

1 サブウーファーコントロール設定モードにする

電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ

(☞ その他❹ 69ページ)

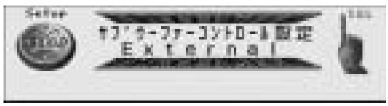


2 調節先を選ぶ

◄または►ボタンを押す

◄：Internal (本機で調節するとき)

►：External (外部アンプで調節するとき)



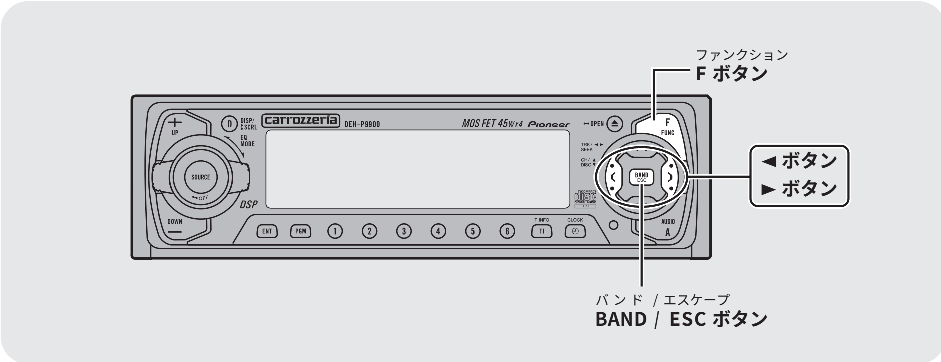
↓

BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

● リアスピーカー出力設定モード **(☞ その他❿)** で、“ Sub woofer output ” を選んだときは、サブウーファーコントロール設定モードには切り換わりません。

● サブウーファーの調節先を選んだあとの設定についての詳細は **(☞ 音の調節❻ 50ページ)**



その他 12 音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

録音レベルの高いCDなどを聞いているときに、イコライザーカーブのレベルを高く設定 **(☞ DSP調節❹❺ 59、60ページ)** すると、音が歪んでしまうことがあります。デジタルアッテネーターを“ Low ”に切り換えると、この歪みを抑えることができます。(“ Low ”よりも“ High ”の方が音質が優れていますので、通常は“ High ”に設定してお使いください。)

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの設定 **(☞ DSP調節❹❺ 59、60ページ)** でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定をLowに切り換えてください。

1 デジタルアッテネーターモードにする

電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ
(☞ その他❹ 69ページ)



2 設定を選ぶ

◄または►ボタンを押す

►：High (通常の設定)

◄：Low (Highで音が歪むとき)



↓

BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

その他 13 背景のパターンを選ぶ

壁紙選択

ディスプレイに表示される文字などの背景のパターンを選ぶことができます。

1 壁紙選択モードにする

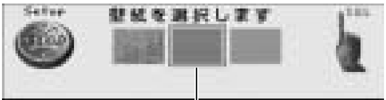
電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ
(☞ その他❹ 69ページ)



2 壁紙を選ぶ

◄または►ボタンを押す

お好みの壁紙を選びます。



選んだ壁紙が太枠で囲まれます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

その他 14 ディスプレイの明るさを調節する

ブライト

ディスプレイの明るさを調節することができます。

1 ブライトモードにする

電源OFFのときにFボタンを2秒以上押してから、Fボタンを押して選ぶ
(☞ その他❹ 69ページ)



2 明るさを調節する

◄または►ボタンを押す

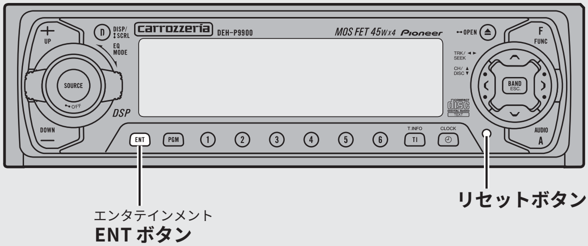
►：明るくしたいとき
◄：暗くしたいとき



0～31の範囲で調節できます。

↓

BAND/ESCボタンを押して、初期設定モードを解除してください。



その他 15 エンタテインメントを表示させる

エンタテインメント表示

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることができます。車内で、いろいろな表示を楽しむことができます。

エンタテインメント表示について

エンタテインメント表示は、音楽などを聞いているときに、ディスプレイにいろいろな動画などを表示する機能です。

1 エンタテインメントを表示する

ENTボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間
↓
スペクトラムアナライザーモード 1
(3D ピークアウェイ)
↓
スペクトラムアナライザーモード 2
(ピークバウンド)
↓
スペクトラムアナライザー
+ソースインフォメーションモード
↓
ムービースクリーンモード 1 (メガロポリス)
↓
ムービースクリーンモード 2 (コスモス)
↓
スペクトラムアナライザー
+ムービースクリーンモード
↓
ASL レベルインジケーターモード
↓
再生経過時間に戻る

メモ

- ASL については (☞ **音の調節❾ 54 ページ**)

その他 16 本機のリセットについて

リセット

本機のいろいろな設定を初期設定状態 (ご購入時の状態) にすることができます。

リセットボタンについて

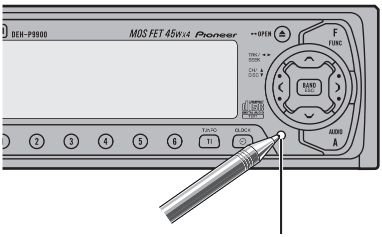
リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入時の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

●接続が終わったとき。
●本機が正しく動作しないとき。
●ディスプレイが正しく表示されないとき。

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す

本機のマイコンが初期状態に戻ります。



リセットボタン

その他 17 ミュート機能について

ミュート

ミュート機能のある製品 (パイオニア製ナビゲーションシステム「AVIC-D9000」など) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュート機能が働きます。ミュート機能が働いているときの音量は " 0 " です。

ミュート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

付録 1 CD の正しい使いかた

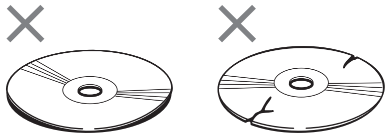
使用できる CD について

● 下記マークの付いているコンパクト ディスク（光学式 デジタル オーディオ ディスク）をご使用ください。

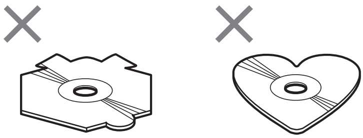
COMPACT disc DIGITAL AUDIO

COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT

● ひび、キズ、そりのある CD は使用しないでください。



● 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。

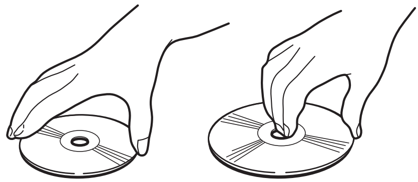


● CD レコーダーで記録した CD-R ディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

● CD-R ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

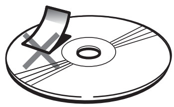
保管上のご注意

● CD は、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



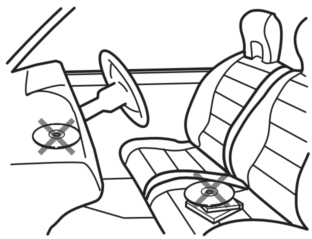
● CD にキズを付けないでください。

● CD にシールなどを貼り付けないでください。



取り扱い上のご注意

● 直射日光の当たるところや高温になるところには、CD を保管しないでください。



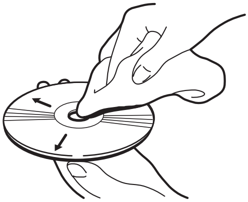
● CD がそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

メモ

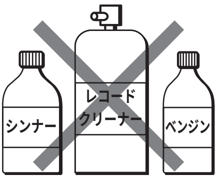
● 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



- 当社では、CD用のクリーニングキット「JV-D11」を別売しています。カーステレオ販売店でお買い求めください。

CD再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。
  このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

付録2 故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら
修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

→

チェックしても直らないときは
本機をリセットしてください。（☞ **その他⑯ 77ページ**）

→

それでも直らないときは
保証書とアフターサービス（☞ **付録❹ 83ページ**）をお読みになり、修理を依頼してください。

■ 共通項目

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 （☞ **取付説明書**）
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のものと交換してください。（☞ **取付説明書**）
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 （☞ **ここだけで❷❸❹ 13、15、17ページ**）
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 （☞ **音の調節❶ 46ページ**）
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 （☞ **音の調節❸ 47ページ**）
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 （☞ **音の調節❸ 47ページ**）
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 （☞ **音の調節❸ 47ページ**）
ディスプレイが反転表示する。	デモモードがONになっている。	デモモードを解除してください。 （☞ **はじめに❸ 8ページ**）

■ ラジオ

症　状	原　因	処　置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (☞ **ここだけで❸ 15 ページ**)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (☞ **ここだけで❸ 15 ページ**)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (☞ **ここだけで❸ 15 ページ**)

■ CD

症　状	原　因	処　置
CD 再生中、大きな雑音が出る。 CD の再生が途中で止まる。 CD が自動的に出てくる。	CD に大きなキズやそりがある。	他の CD と交換してください。良くなれば CD の不良です。
	CD が極端に汚れている。	CD の汚れをふき取ってください。 (☞ **付録❶ 79 ページ**)
	CD に曇りや水滴がついている。	CD の曇りや水滴をふき取ってください。 (☞ **付録❶ 79 ページ**)
	CD の裏表を逆にしてセットしている。	CD のタイトル面を上にしてセットしてください。(☞ **ここだけで❷ 12 ページ**)

付録3 こんなメッセージが表示されたら

CDのエラー表示

CDを正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

メッセージ(エラー番号)	メッセージが表示されるとき	処　置
「HEAT」	本機の内部温度が高いとき。	内部温度が下がるまでお待ちください。
「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れているとき。	CDの汚れをふき取ってください。(☞ 付録❶ 79ページ)
	CDにキズやひびがあるとき。	CDを交換してください。
「ERROR-14」	追記型CD（CD-R）を録音しないまま使用しているとき。	追記型CD（CD-R）は、録音してからお使いください。
「ERROR-10」「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-14」「ERROR-17」「ERROR-30」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。

オートイコライジング機能のエラー表示

オートイコライジング機能によって、車室内の音響特性を正常に測定できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。内容を確認して、もう一度操作をやりなおしてください。

メッセージ(エラー番号)	メッセージが表示されるとき	処　置
「マイクを確認して下さい」	マイクが接続されていない。	付属のマイクをきちんと差し込んでください。(☞ DSP調節❽ 64ページ)
「スピーカーを確認して下さい」	スピーカーの計測音がマイクでひろえない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。
		付属のマイクを正しくセットしてください。
「測定エラーです」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな所に車を停車させ、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
		付属のマイクを正しくセットしてください。

メモ

- マルチCD再生中に、上記以外のエラー番号が表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。
保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より１年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低６年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

付録5 本機の操作の概要

本機の操作のまとめです。ひと通りの操作が終わった後、操作を忘れたときなどにお使いください。

ふだん使う機能の操作のしかた

ふだん使う機能は、▲/▼/◄/► ボタンおよび BAND/ESC ボタンで操作します。

聞いているソース / 押すボタン	CD、MDを聞いているとき	ラジオ、テレビを聞いているとき
◄ または ► ボタン	選曲、早送り/早戻し	自動選局、手動選局
▲ または ▼ ボタン	再生するディスクの切り換え (マルチCD、マルチ MD を接続している場合のみ)	記憶させた放送局の切り換え
BAND/ ESC ボタン	――――	バンド (FM/AM) の切り換え

便利な機能の操作のしかた

ふだん使う機能以外は、オペレーションモードを切り換えて操作します。
オペレーションモードには5つのモードがあり、次の手順で操作します。

手順 / モード	ファンクションモード	詳細設定モード	初期設定モード	オーディオ調節モード1	オーディオ調節モード2
1 それぞれのモードにする	Fボタンを押す	Fボタンを2秒以上押す	電源がOFFのときに、Fボタンを2秒以上押す	Aボタンを押す	Aボタンを2秒以上押す
2 機能を切り換える	Fボタンを押す			Aボタンを押す	
3 機能をON/OFFする または 項目を選ぶ	▲ または ▼ ボタンを押す				
	◄ または ► ボタンを押す				
4 それぞれのモードを解除する	BAND/ESCボタンを押す				

それぞれのモードで操作できる機能について

ファンクションモード ：内蔵CDのリピート再生 (☞ **内蔵CD❷ 19ページ**) やマルチCDのスキャン再生 (☞ **マルチCD❺ 33ページ**) など、それぞれのソースの便利な機能を操作できます。

詳細設定モード ：PGM (学習) ボタンの記憶 (☞ **その他❶ 66ページ**) やマルチCDのタイトル入力 (☞ **マルチCD⓫ 38ページ**) など、便利な機能の詳細を設定できます。

初期設定モード ：外部機器 (☞ **その他❼ 71ページ**) などの設定ができます。

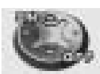
オーディオ調節モード1 ：フェーダー/バランス (☞ **音の調節❸ 47ページ**) など、音に関する調節ができます。

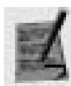
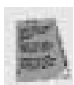
オーディオ調節モード2 ：サブウーファー (☞ **音の調節❽ 52ページ**) など、音に関する調節ができます。

ガイド表示について

本機の操作を行っているとき、ディスプレイを見て操作ができるように、ディスプレイにガイド表示が出ます。



表示の例	内　容
	▲/▼/◄/► ボタンで操作できます。
	▲ または ▼ ボタンで機能のON/OFFができます。
	◄ または ► ボタンで項目を選ぶことができます。

モード設定中の表示例			内　容
	⇦⇨		ON/OFFを表します。
	⇨		記憶中/記憶完了を表します。

付録6 おもな仕様

■ CDプレーヤー部

形式：コンパクトディスク オーディオシステム
使用ディスク：コンパクトディスク
信号 フォーマット：サンプリング周波数：44.1 kHz
量子化ビット数：20ビット直線
周波数特性：5～20,000 Hz (±1 dB)
S/N：110 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
ダイナミック レンジ：94 dB (1 kHz)
チャンネル数：2 (ステレオ)

■ FMチューナー部

受信周波数帯域：76.1～89.9 MHz
実用感度：9 dBf (0.8 μV/75 Ω、モノラル、S/N：30 dB)
S/N 50 dB 感度：14 dBf
(1.4 μV/75 Ω、モノラル)
S/N：70 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：0.3 %
(65 dBf入力、1 kHz、ステレオ)
周波数特性：30～15,000 Hz (±3 dB)
ステレオ セパレーション：40 dB (65 dBf入力、1 kHz)

■ AMチューナー部

受信周波数帯域：522～1,629 kHz (9kHz)
実用感度：18 μV (S/N：20 dB)
実効選択度：50 dB (±9 kHz)

■ オーディオ/DSP部

最大出力：45 W×4
45 W×2ch/4 Ω＋70 W×1ch/2 Ω
(forサブウーファー)
定格出力：22 W×4
(50～15,000 Hz、5 % THD)
負荷 インピーダンス：4 Ω
(4～8 Ω〔2 Ω for 1ch〕使用可能)
プリアウト 最大出力レベル：4 V
出力 インピーダンス：100 Ω
イコライザー (13バンド グラフィック イコライザー)：周波数：50 Hz、80 Hz、125 Hz、200 Hz、315 Hz、500 Hz、800 Hz、1.3 kHz、2 kHz、3.2 kHz、5 kHz、8 kHz、12.5 kHz
調整幅：±12 dB (2 dB)
オートイコライザー (13バンド グラフィック)：周波数 (F + R + SW)：
50 Hz、80 Hz、125 Hz、200 Hz、315 Hz、500 Hz、800 Hz、1.3 kHz、2 kHz、3.2 kHz、5 kHz、8 kHz、12.5 kHz
調整幅：＋6～－12 dB (2 dB)
ラウドネス コンター：LOW：3.5 dB (100 Hz)
3 dB (10 kHz)
MID：10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)
HIGH：11 dB (100 Hz)
11 dB (10 kHz)
(ボリューム：－30 dB)
ネットワーク ハイパス フィルター：周波数：50 Hz/80 Hz/125 Hz
スロープ：－12 dB/oct.

サブウーファー出力：周波数：50 Hz/80 Hz/125 Hz
スロープ：－18 dB/oct.
調整幅：±12 dB
位相：NORMAL/REVERSE

■ 共通部

使用電源	：DC 14.4 V (10.8 ～ 15.1 V 使用可能)
アース方式	：マイナスアース方式
最大消費電流	：10.0 A
寸 法	
(取付寸法)	：178 (W) × 50 (H) × 162 (D) mm
(ノーズ寸法)	：170 (W) × 46 (H) × 15 (D) mm
質 量	：1.8 kg (コードユニット含まず)

■ 付属品

コードユニット	：1
取付ネジ類	：1式
マイク	：1
リモコン	：1
単4形乾電池(R03)	：2
取扱説明書	：1
取付説明書	：1
安全上のご注意	：1
保証書	：1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	：1

メモ

● 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

取扱説明書
DEH-P9900

お客様ご相談窓口 (全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

● カーオーディオ / カーナビゲーション商品のお問い合わせ窓口
0070-800-8181-11

● カタログのご請求窓口
0070-800-8181-33

＜ご注意＞
● ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話、および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。
● 修理に関しては、別添えの『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内
http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

パイオニア株式会社
〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

< 00A00F0Q01 > < CRA2944-A >